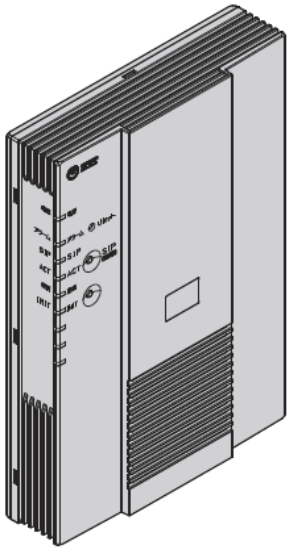
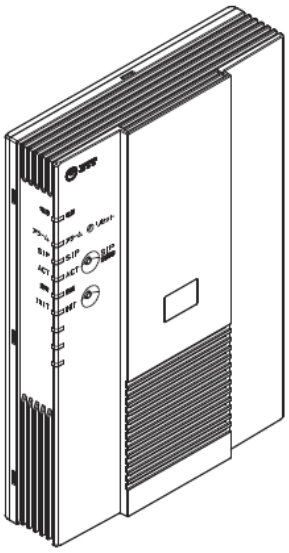
SIP-TA-02／32 設定ツール

取扱説明書

本書は、SIP-TA-02／32 設定ツールの取扱説明書です。

●本設定ツールを使用する前に本書をよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。





ご使用にあたって

●ご使用の際は取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。
●本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
●本設定ツールの故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害や万一本商品に登録された情報内容が消失してしまうことなどの純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本商品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようお願いします。
●本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。
●本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申し付けください。
●この設定ツール取扱説明書、ソフトウェアの内容について将来予告なしに変更することがあります。
●本商品に搭載されているソフトウェアの解析（逆コンパイル、逆アセンブル、リバースエンジニアリングなど）、コピー、転売、改造を行うことを禁止します。

ご利用前の注意事項

通信に関する注意事項

●お客様宅内での接続環境により、最大通信速度が得られない場合や、通信速度が変動する状態または通信が利用できない状態となる場合があります。

●ネットワークを介して外部からの不正侵入および情報漏洩などの危険を回避するため、必要に応じて、お客様のパソコン上にファイアウォールのソフトウェアをインストールするなどの対応をお願いいたします。

データ通信サービスご利用に関する注意事項

●データ通信をご利用いただくためには、フレッツ 光ネクストおよびひかり電話サービスのご契約が必要です。

●ご使用の環境により、通信中に失敗することがあります。通信が失敗した場合でも、失敗するまでの通信に対して使用料金がかかります。

本書における商標の表記について

Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
※ Windows®7 は 、Windows®7 Home Premium 、Windows®7 Professional 、Windows®7 Enterprise 、Windows®7 Ultimate の各日本語版かつ 32 ビット(x86)/64 ビット(x64)版の略です。
※ Windows Vista® は 、Windows Vista®Home Basic 、Windows Vista®Home Premium 、Windows Vista® Business および Windows Vista® Ultimate の各日本語版かつ 32 ビット(x86)版の略です。
※Windows®XP は、Microsoft®Windows®XP Home Edition operating system および Microsoft®Windows®XP Professional operating system の略です。
Microsoft®、Windows®、Windows Vista®は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Java™は、米国 Sun Microsystems,Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

●フレッツ光ネクストは、東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社の登録商標です。

●本書に記載されている製品名はそれぞれの販売元あるいは製造元の登録商標です。

●その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

■目次■

安全にお使いいただくために必ずお読みください
ご利用前の注意事項

1章　ご利用の前に
　1－1　はじめに
　1－2　お客様にご用意いただくもの
　1－3　ご利用方法
　1－4　ご利用上の注意事項

2章　インストール/アンインストール
　2－1　インストール方法
　2－2　インストール先フォルダのフォルダ構成
　2－3　アンインストール方法

3章　共通設定手順
　3－1　電話番号リストファイル作成
　3－2　パスワード指定方法
　3－3　ログ出力情報

4章　サポート機能および詳細手順
　4－1　ファームウェア配布・適用機能
　4－2　設定パラメータ取得機能
　4－3　設定パラメータ配布・適用機能
　4－4　QoS テーブル設定機能
　4－5　着呼テーブル設定機能
　4－6　発番認証設定機能
　4－7　再起動指示機能
　4－8　ファームウェアバージョン取得機能

5章　設定ツールの設定例
　5－1　設定ツールでのデータ通信の設定例

6章　付録
　6－1　用語集

■1章　ご利用の前に■

この章では、ツールの使用に先立ち、事前に確認する事項を説明します。

１－１　はじめに
１－２　ご利用方法
１－３　お客様にご用意いただくもの
１－４　ご利用上の注意事項

■1－1　はじめに■

本書では、システム導入時における多数の SIP-TA に対する設定の一括配布や、ファームウェアの一斉更新を容易に実施可能とするための設定ツールに関する実行方法、定義ファイルの設定方法、およびアプリケーションのインストール方法について説明します。SIP-TA に関する取り扱い、SIP-TA の設定に関する説明については、SIP-TA 装置(SIP-TA-02、SIP-TA-32)取扱説明書をご参照ください。

■1－2　お客様にご用意いただくもの■

本設定ツールで設定を行う際に、必要なものを確認します。お客様にご用意いただくものは以下のとおりです。

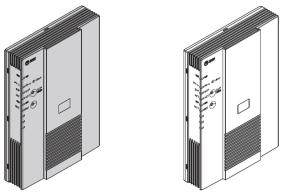
お客様にご用意いただくもの

●パソコン

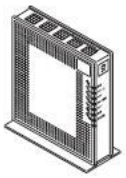
・Windows®　7、または Windows Vista®、Windows® XP SP2
・LAN ポートを装備し、オペレータ端末直近の SIP-TA と LAN を介して通信が可能
・Java(JRE1.6)が実行可能

●SIP-TA

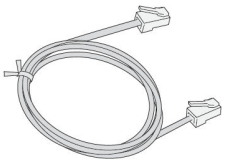
・SIP-TA-02、または SIP-TA-32



●ひかり電話対応ホームゲートウェイ、ひかり電話ルータなど



●ストレート LAN ケーブル



■1－3　ご利用方法■

ご利用構成例

本設定ツールのご利用構成例を図 1.3-1 に示します。

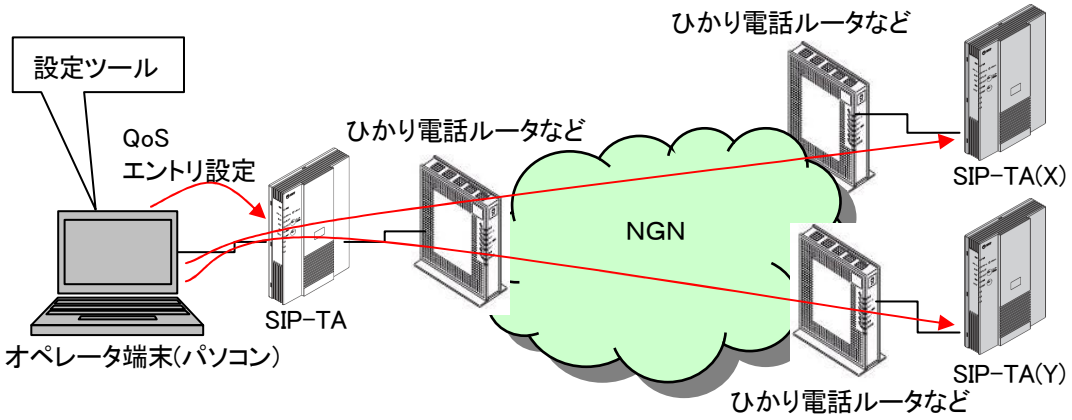


図 1.3-1　設定ツールご利用構成例図

設定ツールのご利用フロー

本設定ツールのご利用フローを図 1.3-2 に示します。

オペレータ端末(パソコン)より、直近の SIP-TA に接続して、管理操作対象となる遠隔の SIP-TA を特定するための電話番号を設定します。本設定ツールでは電話番号から QoS エントリ情報を作成し、直近の SIP-TA に QoS エントリを設定します。QoS エントリ設定後は、SIP アダプテーション機能により遠隔の SIP-TA に接続し、ファームウェアの配布・適用など要求する各種機能を実行します。

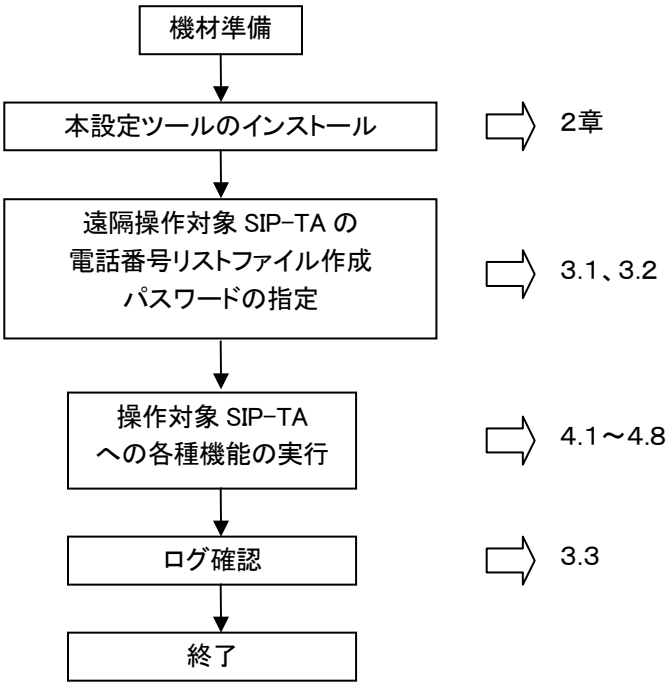


図 1.3-2 設定ツールご利用フロー

■1－4　ご利用上の注意事項■

ご利用方法

本設定ツールはすべてコマンドプロンプトからコマンドを入力して実行します。後述する 2-1 でインストールした先のフォルダが「C:¥sipta¥pkgdist」である場合、以下のようにコマンドプロンプトのカレントディレクトリをインストールした先のフォルダに変更し、以降のコマンドを実行してください。

```
> cd C:¥sipta¥pkgdist (return)
```

注意事項

(1)本設定ツールで管理操作対象となる遠隔の SIP-TA を操作する場合、オペレータ端末直近の SIP-TA から遠隔の SIP-TA が遠隔監視できる設定にする必要があります。オペレータ端末直近の SIP-TA については本設定ツールが自動的に、遠隔操作対象の SIP-TA に接続するための設定を行います。遠隔操作対象となる SIP-TA の設定方法は、SIP-TA 装置(SIP-TA-02、SIP-TA-32)取扱説明書をご参照ください。

(2)コマンド実行中は、[Ctrl]＋[C]は使用しないでください。
本設定ツールで各種コマンド実行中は、[Ctrl]＋[C]で即座に処理が中断されます。また、本設定ツールの複数コマンドをバッチファイルに記述して、複数コマンドを一括で実行することも可能です。この際に[Ctrl]＋[C]を実施した場合、「バッチ ジョブを終了しますか (Y/N)?」が表示されますが、[Ctrl]＋[C]を実施した時点で実行していたコマンドは中断されます。[N]でバッチ処理を継続した場合は、中断されたコマンドの次から実行されます。

(3)管理操作対象となる遠隔の SIP-TA に対して、本設定ツールを複数起動しての同時操作、または本設定ツールの操作とWeb-GUI による設定を同時に実行しないでください。設定ツールおよび Web-GUI が正常に動作しない場合があります。

■2章　インストール/アンインストール■

この章では、本設定ツールのインストール、アンインストールについて説明します。

２－１　インストール方法
２－２　インストール先フォルダのフォルダ構成
２－３　アンインストール方法

■2－1　インストール方法■

図 2.1-1 に示す本設定ツールのセットアッププログラム(setup.exe)を実行します。

図 2.1-1　セットアッププログラム

図 2.1-2に示す画面が表示されますので、[次へ(N) >]をクリックしてください。

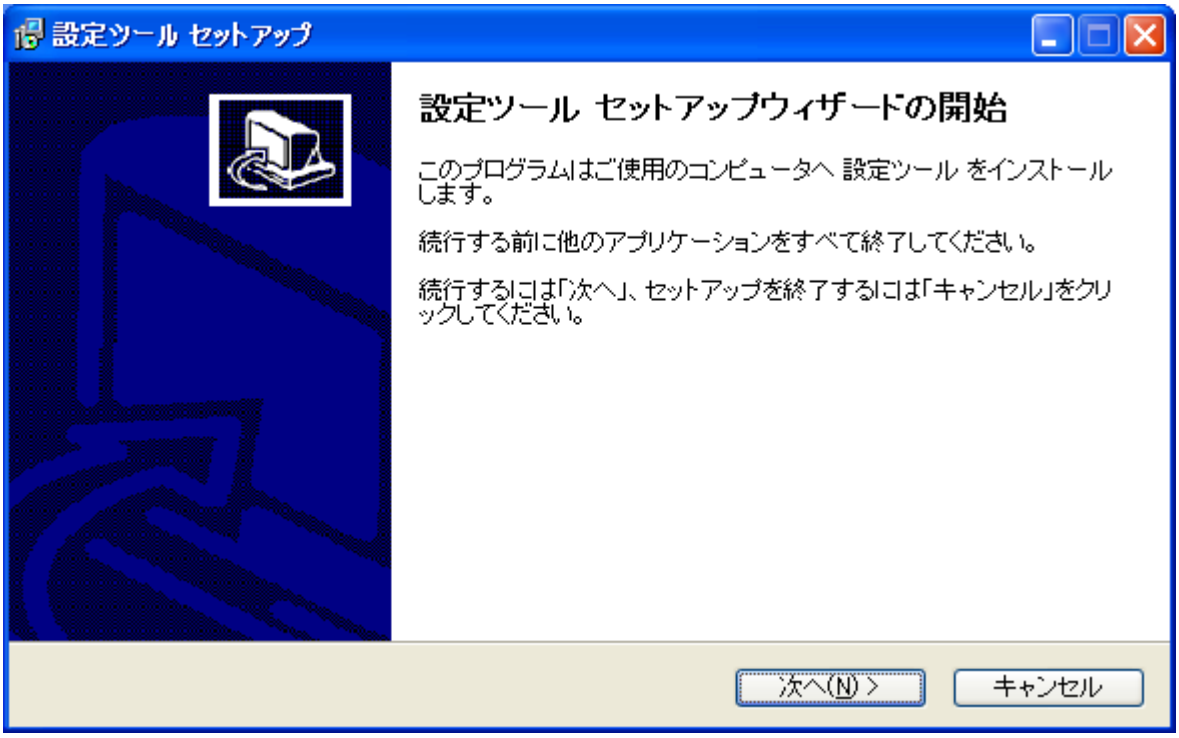


図 2.1-2　セットアップウィザードの開始

図　2.1-3で本設定ツールのインストール先を指定します。以降は、「C:¥sipta¥pkgdist」にインストールすることとして、説明を進めます。インストールするフォルダを変更する場合、画面の説明に従い、インストール先のフォルダを選択してください。フォルダを決定した後、[次へ(N) >]をクリックしてください。

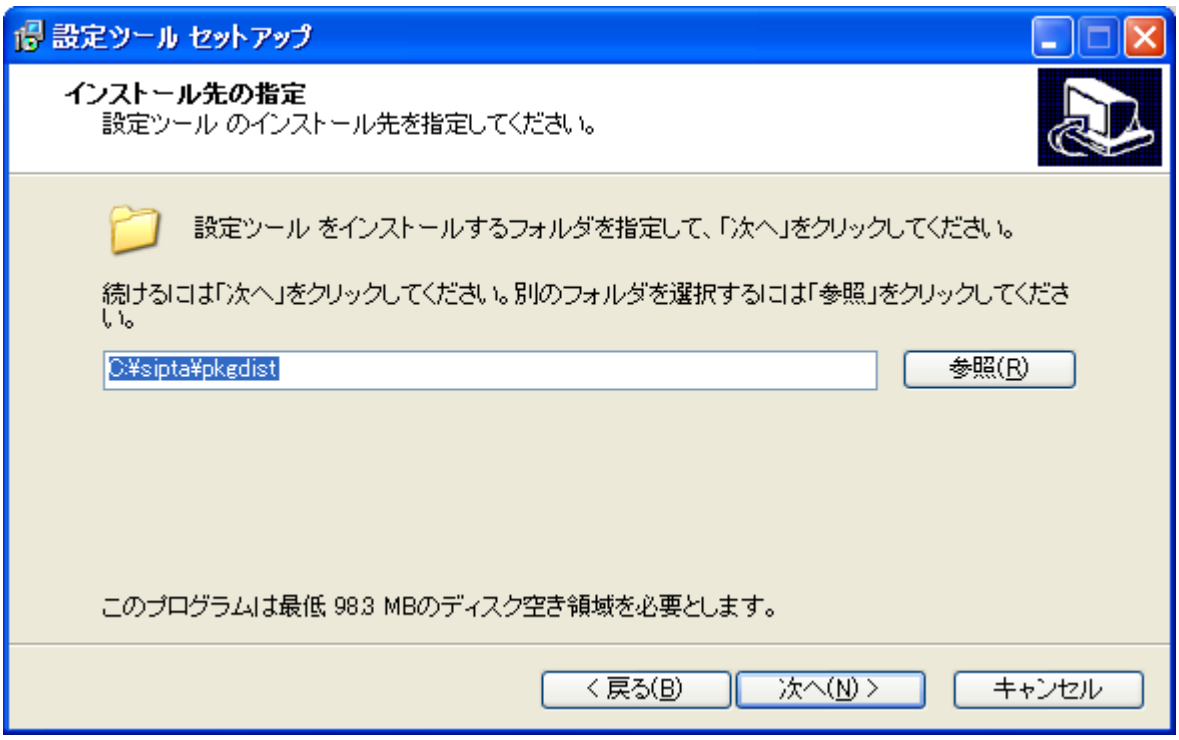


図 2.1-3 インストール先の指定

インストール準備完了として、先の画面で決定したインストール先のフォルダが図 2.1-4のように表示されます。問題なければ、[インストール(I)]をクリックしてください。インストールが開始されます。

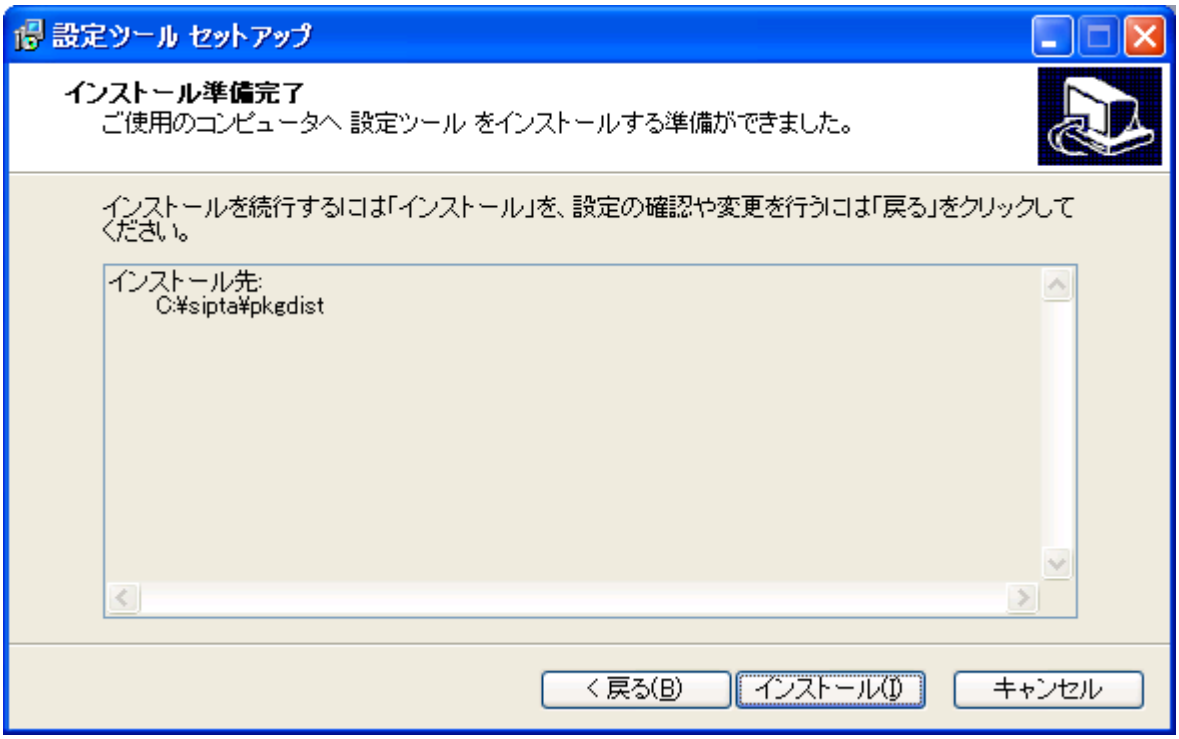


図 2.1-4 インストール準備完了

インストールの完了後、図 2.1-5が表示されますので、[完了(F)]をクリックしてください。これでインストールは完了です。

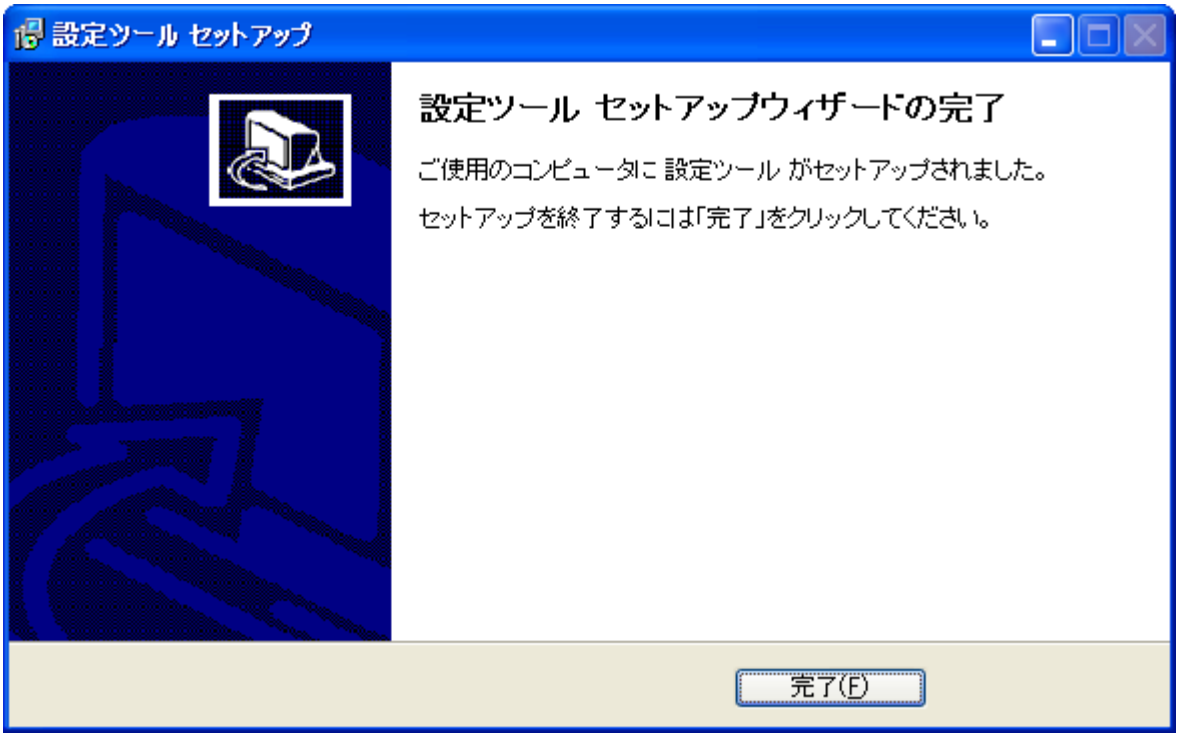


図 2.1-5 セットアップウィザードの完了

尚、CD-ROM 内に、本設定ツールで使用する設定ファイルのサンプルファイルが入っています。サンプルファイルは、本ツールをインストールしてもハードディスクにはコピーされません。必要に応じて、コピーの上、ご使用ください。以下のサンプルファイルが CD-ROM 内に入っています。

¥--------Readme.txt （このCD－ROMについてのご説明）
|
|--- SIP-TA-02／32 設定ツール取扱説明書.pdf（本書）
|
|--- setup.exe（本設定ツールのインストールファイルです。）
|
|--- **サンプル（本設定ツールで使用する設定ファイルのサンプルファイルが入っています。）**
|
|---**電話番号リストファイル_TelList.txt**
|
|---**パスワードファイル_pw.properties**
|
|---**QoS テーブル設定のエントリデータファイル_qostable.csv**
|
|---**着呼テーブル設定のエントリデータファイル_receivetable.csv**
|
|---**発番認証設定のエントリデータファイル_hatsuban.csv**

■2－2　インストール先フォルダのフォルダ構成■

インストール後の、インストール先フォルダのフォルダ構成は、図 2.2-1 のようになります。

図 2.2-1　インストール先フォルダのフォルダ構成

- bin … 実行用コマンドが格納されたフォルダ
- config … 定義ファイルが格納されたフォルダ
- jre … Java プログラムの実行環境が格納されたフォルダ
- lib … 本設定ツールの JAR ファイル、及び使用するライブラリが格納されたフォルダ

■2－3　アンインストール方法■

インストール先フォルダの「unins000.exe」を実行してください。
※アンインストール完了した後も、ログファイルや、本設定ツールご使用の際に、作成されたファイルは残ります。完全に消去したい場合は、手動にてインストール先フォルダごと削除してください。

■3章　共通設定手順■

この章では、本設定ツールを実行するにあたり共通的な設定手順を説明します。

３－１　電話番号リストファイル作成
３－２　パスワード指定方法
３－３　ログ出力情報

■3－1　電話番号リストファイル作成■

遠隔操作対象 SIP-TA の電話番号リストファイル作成について説明します。

電話番号リストファイル作成の概要

本設定ツールでは、遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリストを必ず使用します。

電話番号リストファイルの作成

電話番号リストファイルは、実施する内容により、リストファイルの作成、および電話番号毎のフォルダ作成を必要とします。

(1) 電話番号リストの作成

本設定ツールをインストールしたフォルダに「TelList.txt」ファイルを作成し、遠隔操作対象とする SIP-TA の電話番号を記述します。電話番号は「0-9、#」(1～32 桁)が入力可能です。記述例を図 3.1-1 に示します。

```
031111xxxx
031234yyyy
033333zzzz
035555xxxx
037777yyyy
039999zzzz
```

図 3.1-1 電話番号リストファイル(TelList.txt)記述例

(2) 電話番号フォルダの作成

① 2-1 で本設定ツールをインストールしたフォルダに"data"という名前のフォルダを作成します。

② "data"フォルダに、"0312345678"等遠隔操作対象の SIP-TA の電話番号の名前のフォルダを作成する。作成例を図 3.1-2 に示します。

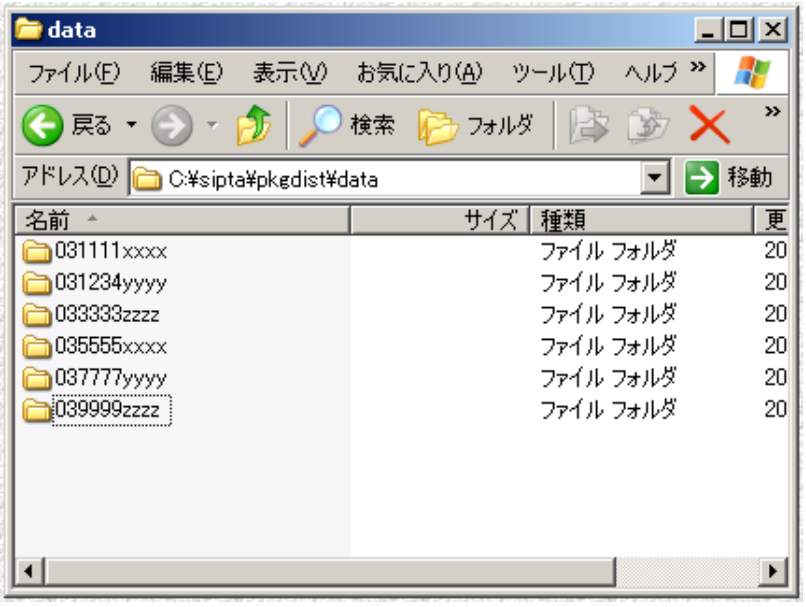


図 3.1-2 電話番号リストフォルダ作成例

■3－2　パスワード指定方法■

本設定ツールで遠隔操作対象 SIP-TA を操作する場合、正しくパスワードを指定する必要があります。パスワードの指定方法について説明します。

オペレータ端末直近の SIP-TA のパスワード指定

オペレータ端末直近の SIP-TA にアクセスする際のパスワードは、"config"フォルダの「pkgdist.properties」ファイルに定義されている共通パスワードを使用します。共通パスワードは、同ファイル内の"sipta.tool.pkgdist.passwd="で指定されます。初期値として「admin0」を指定しています。オペレータ端末直近の SIP-TA のユーザー名「admin」のパスワードを「admin0」以外に変更した場合は、それにあわせて変更してください。パスワードは、1～15 文字の半角英数記号とします。パスワードに< > ¥ ' " ? & % = : ; @ / ~ および空白文字は指定できません。

遠隔操作対象の SIP-TA のパスワード指定

遠隔操作対象の SIP-TA のパスワードは、"config"フォルダに「pw.properties」ファイルを作成して指定することが可能です。「pw.properties」ファイルに指定するパスワードは、遠隔操作対象の SIP-TA のユーザー名「admin」のパスワードです。

パスワード情報の書式は、「電話番号,パスワード（平文）」です。例えば、電話番号が 0312345678、パスワードを admin123 で指定する場合は、「pw.properties」ファイルに「0312345678,admin123」と入力します。電話番号は「0-9、#」(1～32 桁)、パスワードは、1～15 文字の半角英数記号とします。但し、電話番号に、110/118/119（184/186 含む）は指定できません。パスワードに< > ¥ ' " ? & % = : ; @ / ~ および空白文字は指定できません。記述例を図 3.2-1 に示します。

```
031234xxxx,admin123
031111yyyy,aaa
033333zzzz,bbb
035555xxxx,ccc
037777yyyy,ddd
039999zzzz,eee
```

図 3.2-1　パスワード情報ファイル(pw.properties)記述例

なお、「t」オプションや「l」オプションで指定の TelList.txt で指定される電話番号に対応したパスワードが指定されていない場合、"config"フォルダの「pkgdist.properties」ファイルに定義されている共通パスワードを使用して遠隔操作対象となる SIP-TA にアクセスします。

■3－3　ログ出力情報■

本設定ツールでは、SIP-TA との間の通信情報をログに出力することができます。ログ出力情報について説明します。

ログ出力情報

本設定ツールでは、ログをファイル形式で出力します。

ログファイルは、”log”フォルダに「httptrace.log」というファイル名で出力されます。本設定ツール実行中は、ログファイルを操作しないでください。コマンド実行中にログファイルを操作すると、ログが正常に出力されない場合があります。また、ログファイルを操作中に本設定ツールの各種コマンドを実行すると、コマンドプロンプトに表 3.3-1 に示す注意が表示され、コマンドは実行されない場合があります。

表 3.3-1 ログファイル操作中の表示

No	ログ出力内容	説明
1	ログファイルの生成，もしくは出力に失敗しました。	ログファイルを別のプログラムで操作中のため、コマンドが実行できない場合に表示されます。ログファイルを操作しているプログラムを終了後、再度コマンドを実行してください。

表 3.3-2 に本設定ツールが正常に動作している際にログファイルに出力される内容を示します。

表 3.3-2 正常時ログ一覧

No	ログ出力内容	説明
1	ファームウェア配布・適用の実行を開始します。	ファームウェア配布・適用(cfwupld)の処理を開始した場合
2	設定パラメータ取得の実行を開始します。	設定パラメータ取得(cprmget)の処理を開始した場合
3	設定パラメータ配布・適用の実行を開始します。	設定パラメータ配布・適用(cprmset)の処理を開始した場合
4	QoS テーブル設定の実行を開始します。	QoS テーブル設定(cqostbl)の処理を開始した場合
5	着呼テーブル設定の実行を開始します。	着呼テーブル設定(crcvtbl)の処理を開始した場合
6	発番認証設定の実行を開始します。	発番認証設定(cathtbl)の処理を開始した場合
7	再起動指示の実行を開始します。	再起動指示(crestrt)の処理を開始した場合
8	ファームウェアバージョン取得の実行を開始します。	ファームウェアバージョン取得(cfwvrdl)の処理を開始した場合
9	オペレータ端末直近の装置に対して QoS エントリの設定を実行中です。	各処理において、遠隔操作対象 SIP-TA への接続するためにオペレータ端末直近の SIP-TA 装置に QoS テーブルの設定処理を開始した場合
10	ファームウェアのアップロードを実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA にファームウェアのアップロード処理を開始した場合
11	設定パラメータのダウンロードを実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA に設定パラメータのダウンロード処理を開始した場合
12	設定パラメータのアップロードを実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA に設定パラメータのアップロード処理を開始した場合
13	QoS テーブルの設定を実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA に QoS テーブルの設定処理を開始した場合
14	着呼テーブルの設定を実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA に着呼テーブルの設定処理を開始した場合

15	発信者番号の認証のモード設定を実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA に発番認証設定の認証モード設定処理を開始した場合
16	発信者番号の認証の設定を実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA に発番認証設定の認証設定処理を開始した場合
17	設定保存の指示を実行中です。	QoS テーブル設定、着呼テーブル設定、発番認証設定の処理完了後、遠隔操作対象の SIP-TA に設定保存指示を開始した場合
18	SIP セッション(※)情報の取得を実行中です。	再起動の指示を実施する前に、他に SIP セッション(※)が確立されてないかの確認を行うため、遠隔操作対象の SIP-TA に SIP セッション(※)情報の取得を開始した場合
19	再起動の指示を実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA に再起動の指示を開始した場合
20	ファームウェアバージョンの取得を実行中です。	遠隔操作対象の SIP-TA にファームウェアバージョン取得を開始した場合
21	プログラムを終了します。	各処理を終了した場合
22	電話番号[XXX]に対して処理を実行します。	遠隔操作対象が電話番号 XXX に切り替わった場合
23	Flash への書き込み状況を確認します。	ファームウェア配布・適用機能で、遠隔操作対象とする全ての装置へのアップロードを完了した場合

※ 本ツールでは、以降 SIP セッションと記載しますが、ひかり電話サービスでのチャネルのことです。

表 3.3-3 にエラー発生時にログファイルに出力される内容を示します。
エラーログの場合、各行の先頭に「====>」が付いてログファイルに出力されます。

表 3.3-3 エラーログ一覧

No	ログ出力内容	説明
1	コマンドラインオプション，或いはそのデフォルト値の設定が不正です。	使用する機能で必要なオプションやそのデフォルト値が設定されていない場合に出力されます。コマンドラインを見直し、再度コマンドを実行してください。
2	ファイル格納場所の親ディレクトリがオプション(-m)で指定されていません。	設定パラメータ取得機能(cprmget)で「m」オプションが設定されていない場合に出力されます。コマンドに「m」オプションを設定して、再度コマンドを実行してください。
3	許容範囲外の値を設定しています。	コマンドラインオプションに指定する値が指定範囲外の場合に出力されます。コマンドラインオプションに指定する値を見直し、再度コマンドを実行してください。
4	インスタンスの生成に失敗しました。プログラムを終了します。	プログラム内部でインスタンスの生成（メモリ確保、等）に失敗した場合に出力されます。他のプログラムを終了後、再度コマンドを実行してください。
5	ファイルアクセスに失敗しました。（ファイルのパス情報）	ファイルの入出力でエラーが発生した場合に出力されます。そのファイルが他のプログラムで使用されている可能性があります。他のプログラムを終了後、再度コマンドを実行してください。
6	通信エラーが発生しました。(No route to host: connect)	オペレータ端末が、オペレータ端末直近の SIP-TA に接続できない場合に出力されます。LAN ケーブルの接続やオペレータ端末の設定をご確認、修正後、再度コマンドを実行してください。
7	通信エラーが発生しました。(Connection to http://xxx.xxx.xxx.xxx refused)	通信環境に問題がある場合や、TelList.txt、「t」オプションで指定された電話番号リストの誤り、または管理操作対象となる遠隔の SIP-TA の設定の問題等により、遠隔の SIP-TA に接続できない場合に出力されます。通信環境や設定を見直し、再度コマンドを実行してください。なお、xxx.xxx.xxx.xxx は「d」オプションで指定した IP アドレスが出力されます。
8	通信エラーが発生しました。(Read timed out)	コマンド実行中に通信環境や、その他の問題等によりタイムアウトが発生した場合に出力されます。通信環境をご確認ください。
9	定義情報を取得できませんでした。プログラムを終了します。	定義ファイルから定義情報を取得できなかった場合に出力されます。再インストール後、再度コマンドを実行してください。
10	指定された電話番号が不正です。(XXX)	TelList.txt、または「t」オプションで指定された電話番号 XXX が不正の場合に出力されます。電話番号を修正後、再度コマンドを実行してください。
11	有効な電話番号がありません。	TelList.txt、または「t」オプションで指定された電話番号が全て無効な場合に出力されます。有効な電話番号に修正し、再度コマンドを実行してください。
12	対象となるファイルが見つかりません。	CSV ファイルやバイナリファイル等の、各機能で扱うファイルが存在しない場合に出力されます。ファイルを保存後、再度コマンドを実行してください。
13	指定された値はファイルではありません。	CSV ファイルやバイナリファイル等の、各機能で扱うファイル名にディレクトリが指定された場合に出力されます。コマンドラインを見直し、再度コマンドを実行してください。

14	対象となるファイルが不正です。	ファームウェア配布時にファームウェアファイルを指定されなかった場合、または設定パラメータ配布時に設定パラメータファイルを指定されなかった場合に出力されます。コマンドライン、または対象となるファイルを見直し、再度コマンドを実行してください。
15	対象となるファイルのバックアップに失敗しました。	設定パラメータ取得機能やファームウェアバージョン取得機能ではファイル出力を行うが、同名のファイルが存在する場合はバックアップを取ってからファイル出力を行うものの、そのバックアップに失敗した場合に出力されます。連続して発生する場合、保存時にファイル名を変更する、または各種取得機能実行前にファイル名を変更してから、コマンドを実行してください。
16	指定されたパスワードが不正です。	定義ファイルに設定されたパスワードに使用できる文字列(半角英数記号で1～15 文字)以外が使用されている場合に出力されます。また、パスワードに< > ¥ ’ ” ? & % = : ; @ / ~ および空白文字が使用されている場合にも出力されます。指定しているパスワードを見直して、再度コマンドを実行してください。
17	認証に失敗しました。	アカウント、パスワードが不正によりSIP-TAにアクセス失敗した場合に出力されます。アカウント、パスワードを見直して、再度コマンドを実行してください。
18	A 行目の有効行の，CSV ファイルのフォーマット，もしくはエンティティの定義が不正です。	CSV ファイルの A 行目にカラム数、もしくは定義情報の項目数に誤りがある場合に出力されます。CSV ファイルの A 行目を修正後、再度コマンドを実行してください。
19	A行目の有効行の，B番目のパラメータの値が不正です。(=パラメータの値)	CSV ファイルの A 行目の B 番目のパラメータチェックでエラーがある場合に出力されます。CSV ファイルの A 行目の B 番目のパラメータを修正後、再度コマンドを実行してください。
20	A 行目の有効行の，B 番目の電話番号は使用できません。(=パラメータの値)	CSV ファイルに記載の A 行目の B 番目の電話番号が禁止電話番号である場合に出力されます。CSV ファイルのA行目のB番目の電話番号を修正後、再度コマンドを実行してください。
21	A 行目の有効行の，エントリ番号は既に登録されています。(=パラメータの値)	CSV ファイルの A 行目に重複したエントリ番号を発見した場合に出力されます。CSVファイルのA行目のエントリ番号を修正後、再度コマンドを実行してください。
22	A 行目の有効行のデータは既に登録されています。(重複チェック対象のデータの値)	CSV ファイルの A 行目に重複したデータの組合せを発見した場合に出力されます。CSV ファイルの A 行目のデータを修正後、再度コマンドを実行してください。
23	A 行目の有効行の，電話番号と電話番号(予備)に同じ値が設定されています。	QoS テーブルの CSV ファイル内の A 行目に電話番号と電話番号(予備)で同じ電話番号が設定されている場合に出力されます。CSV ファイルの A 行目の電話番号または電話番号(予備)の値を修正後、再度コマンドを実行してください。
24	A 行目の有効行の，グループ化された電話番号が不正です。	QoS テーブルの CSV ファイル内の A 行目に同一グループ番号で、異なる電話番号のセットが設定されている場合に出力されます。CSV ファイルの A 行目のグループ番号または電話番号を修正後、再度コマンドを実行してください。
25	A 行目の有効行の，電話番号が異なるグループの電話番号と重複しています。	QoS テーブルの CSV ファイル内の A 行目に異なるグループ番号に、同一の電話番号セットが設定されている場合に出力されます。CSV ファイルの A 行目のグループ番号または電話番号を修正後、再度コマンドを実

		行してください。
26	確立中のセッション情報が2本以上存在しますので処理を中止します。	再起動指示を実施した時に、対象の SIP-TA に本ツールが使用している SIP セッション以外の SIP セッションが存在する場合に出力されます。その他の SIP セッションが切断されてから、再度コマンドを実行してください。
27	X は無効なコマンドラインオプションです。プログラムを終了します。	無効な「X」オプションを指定された場合に出力されます。コマンドラインを見直し、再度コマンドを実行してください。
28	X のコマンドラインオプションが重複しています。プログラムを終了します。	「X」オプションが重複して入力された場合に出力されます。コマンドラインを見直し、再度コマンドを実行してください。
29	実行時にエラーが発生しました。（エラー内容）	上述以外の実行時エラーが発生した場合に出力されます。エラー内容を確認、修正後、再度コマンドを実行してください。

ログファイルには、上記以外に、SIP-TA と本設定ツールがやり取りしている各種操作の情報が出力されます。

■4章　サポート機能および詳細手順■

この章では、本設定ツールが提供する機能について説明します。機能の一覧を表 4-1 に示します。

表 4-1 サポート機能一覧

No.	機能	コマンド名	概要
1	ファームウェア配布・適用	cfwupld	各 SIP-TA へファームウェアファイルの配布を行います。 SIP-TA 毎に別々のファームウェアファイルを指定することも可能です。
2	設定パラメータ取得	cprmget	各 SIP-TA から設定パラメータを取得し、ファイルに保存します。
3	設定パラメータ配布・適用	cprmset	各 SIP-TA へ設定パラメータを配布します。 SIP-TA 毎に別々の設定パラメータファイルを指定することも可能です。
4	QoS テーブル設定	cqostbl	各 SIP-TA へ SIP アダプテーションの QoS テーブルエントリの設定を配布します。 SIP-TA 毎に別々のエントリデータファイルを指定することも可能です。
5	着呼テーブル設定	crcvtbl	各 SIP-TA へ SIP アダプテーションの着呼テーブルエントリの設定を配布します。 SIP-TA 毎に別々のエントリデータファイルを指定することも可能です。
6	発番認証設定	cathtbl	各 SIP-TA へ SIP アダプテーションの発番認証モード、発番認証テーブルエントリの設定を配布します。 SIP-TA 毎に別々のエントリデータファイルを指定することも可能です。
7	再起動指示	crestrt	各 SIP-TA へ再起動を指示します。
8	ファームウェアバージョン取得	cfwvrdl	各 SIP-TA から動作中ファームウェアバージョンを取得し、ファイルに保存します。

これらの機能は、SIP-TA の設定用 Web-GUI で既に用意されています。本設定ツールは、SIP-TA の設定用 Web-GUI による設定をコマンドラインからの操作により模擬することでこれらの機能を実現します。また、複数の SIP-TA に対して一括して各機能を実行できることが、本設定ツールのメリットとなります。
各コマンド実行時は、オプション毎に規定されたパラメータ範囲のチェックが行われ、不正なパラメータ指定が行われている場合には、エラーとしてログに出力をします。エラーログの詳細は表3.3-3 エラーログ一覧をご参照ください。

以降に、各機能の詳細について説明します。

４－１　ファームウェア配布・適用機能
４－２　設定パラメータ取得機能
４－３　設定パラメータ配布・適用機能
４－４　QoS テーブル設定機能
４－５　着呼テーブル設定機能
４－６　発番認証設定機能
４－７　再起動指示機能
４－８　ファームウェアバージョン取得機能

■4－1　ファームウェア配布・適用機能■

ファームウェア配布・適用機能について説明します。

ファームウェア配布・適用機能の概要

本機能は、指定のファームウェアファイルを、対象とする複数の SIP-TA に対してアップロードします。アップロードするファームウェアファイルは、コマンドラインオプションにて指定可能です。また、アップロード対象とする複数の SIP-TA に対し、一つのファームウェアファイルを指定することも、別々のファームウェアファイルを指定することも可能です。
ファームウェアファイルにはバージョン情報が設定されています。本機能を使用する場合、基本的にはファームウェアのバージョンアップが目的と想定されますが、バージョンダウンとなるファームウェアを指定し、実行することも可能です。本設定ツールの側では、現在のファームウェアバージョンと、アップロードするファームウェアバージョンをチェックして、本機能の実行を抑止することはありません。
操作対象とする SIP-TA は、電話番号リストファイルで管理します。SIP-TA 毎にアップロードするファームウェアファイルを区別する場合、電話番号のディレクトリを用意して、そのディレクトリにファームウェアファイルを配置します。
遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリスト（TelList.txt）を、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに準備して実施してください。

（1）実行例について

（a）すべてのオプションをデフォルト値で実行する場合

すべてのオプションを、いずれもデフォルト値で実行する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cfwupld (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・ファームウェアファイル(sw.bin)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

（b）指定のファームウェアファイルを配布･適用する場合

指定のファームウェアファイル(SIP-TA_XXX.bin)を配布・適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cfwupld -f SIP-TA_XXX.bin (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・ファームウェアファイル(SIP-TA_XXX.bin)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

（c）複数の SIP-TA に異なるファームウェアファイルを配布・適用する場合

例えば、SIP-TA(X)に SIP-TA_XXX.bin を、SIP-TA(Y)に SIP-TA_XYZ.bin を配布・適用する場合、まずは以下の準備を行います。

・本ソフトウェアをインストールしたフォルダに”data”という名前のフォルダを作成する
・”data”フォルダに、” ○○○○○○1111”（←SIP-TA(X)の電話番号）と”○○○○○○2222”（←

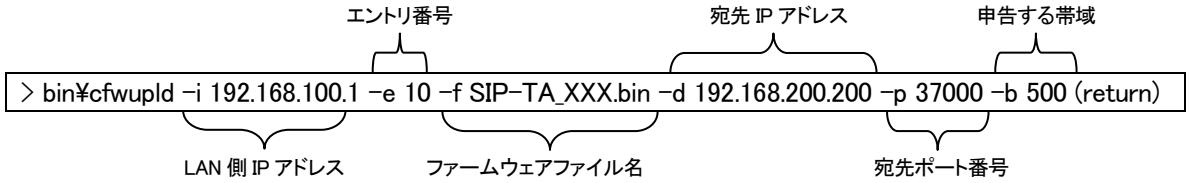
SIP-TA(Y)の電話番号）という名前のフォルダを作成する
・”data¥〇〇〇〇〇〇1111”のフォルダに「SIP-TA_XXX.bin」のファイルを、また、”data¥〇〇〇〇〇〇2222”のフォルダに「SIP-TA_XYZ.bin」のファイルを、それぞれ「sw.bin」というファイル名で配置する

以上の準備が整ったら、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cfwupld -m data (return)
```

(d) コマンドオプションを複数使用し、指定のファームウェアファイルを配布・適用する場合
- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス： 192.168.100.1
- エントリ番号： 10
- 配布･適用するファームウェアファイル名： SIP-TA_XXX.bin
- 宛先 IP アドレス： 192.168.200.200
- 宛先ポート番号： 37000
- 申告する帯域： 500
- SIP-TA(X)電話番号： 〇〇-〇〇〇〇-1111、SIP-TA(Y)電話番号： 〇〇-〇〇〇〇-2222

図 4.1-1 に示す構成例で上記設定にてファームウェアファイルを適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。(別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します)



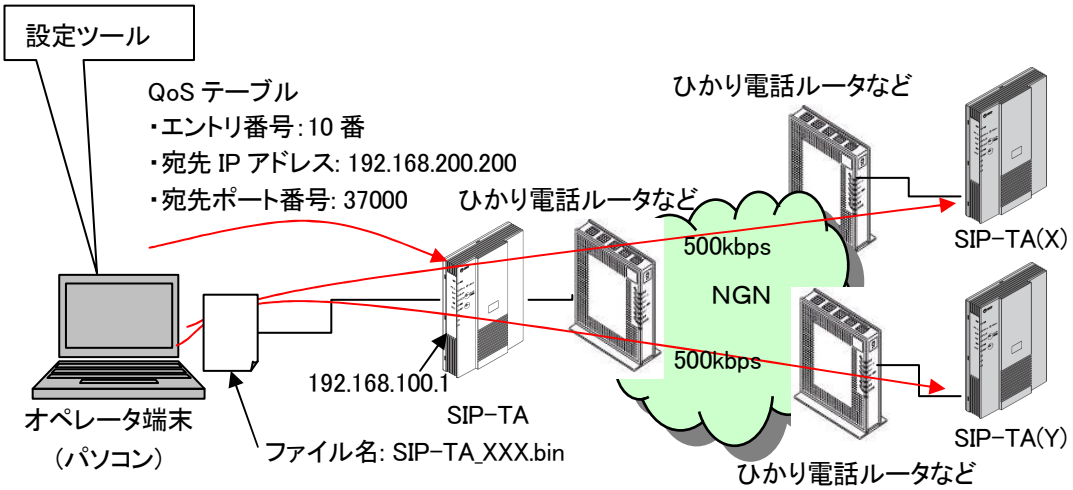


図 4.1-1 コマンドオプション使用時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、ファームウェアのアップロードが適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は3-3 を参照下さい。

ファームウェア配布・適用機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.1-2 に示します。

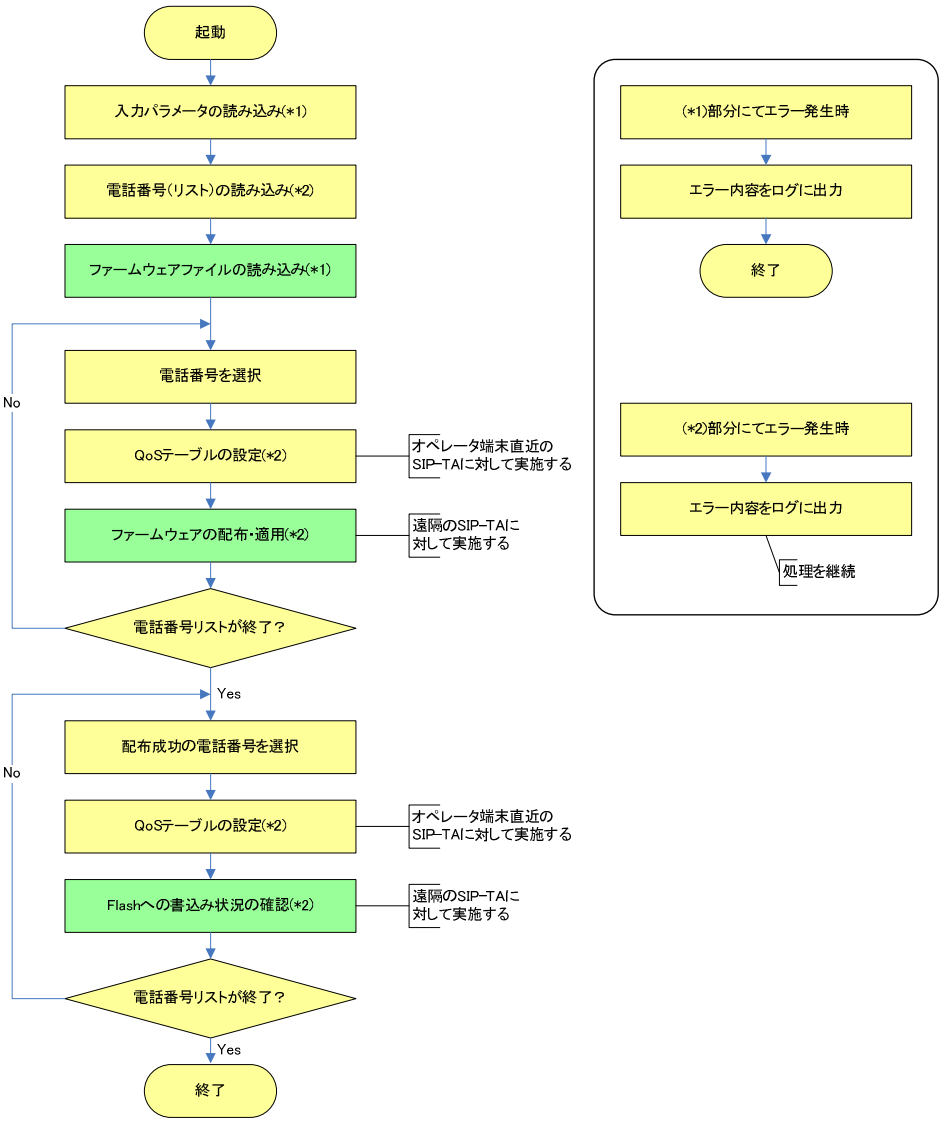


図 4.1-2 ファームウェア配布・適用の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、ファームウェア配布・適用以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号(リスト)の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

ファームウェア配布・適用機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.1-1 に示します。

”パラメータ範囲”の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.1-1 ファームウェア配布・適用で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l (小文字の L)	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	(なし)	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。	△ (*1)
-m	ファームウェアファイルが置かれている電話番号名のディレクトリの親ディレクトリ名	(なし)	テキスト形式のディレクトリ名	△ (*2)
-f	ファームウェアファイル名	sw.bin	ファームウェアファイル名(テキスト)	○ (*2)
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合、そのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。(このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します)

(*2)コマンドラインオプションの”-m”を指定しなかった場合、”-f”に指定するファイル名(パス名)は絶対パス、相対パスのどちらでも設定が可能です。相対パスの場合(ファイル名のみの指定の場合も含む)、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスとなります。
また、”-m”を指定した場合、”-f”で指定できるのはファイル名のみとなります。例えば、”-m”に「a/b/c」を、”-f”に「sw_test.bin」を指定した場合、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスが「/a/b/c/電話番号/sw_test.bin」であるファイルを電話番号が対応する SIP-TA に配布・適用することになります。
”-m”を指定しなかった場合、適用するファームウェアファイルは”-f”で指定されたものか、そのデフォルト値である「sw.bin」の 1 種類のみとなり、SIP-TA 毎に区別することはできません。SIP-TA 毎にファームウェアファイルを区別したい場合は”-m”を指定する必要があります。

ファームウェア配布・適用機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルは、SIP-TA 用のファームウェアファイルです。配布実施前に不正ファイルでないかを本設定ツールでチェックします。不正ファイルである場合は、ログに記録し処理を中断します。但し、ファームウェアファイルの中身が壊れている等の場合、SIP-TA に適用する際にエラーが発生することがあります。この際、SIP-TA から出力されるエラーメッセージは、本設定ツールのログにも記録されます。

■4－2　設定パラメータ取得機能■

設定パラメータ取得機能について説明します。

設定パラメータ取得機能の概要

本機能は、対象とする複数の SIP-TA に設定されているパラメータファイル(バイナリ)をダウンロードし、テキストファイルに変換した上でファイルに保存します。ダウンロード後に保存する設定パラメータのファイル名は、ユーザーにて指定可能です。操作対象とする SIP-TA は、電話番号リストで管理します。複数の SIP-TA に対して一括で操作を行う場合、それぞれの電話番号でディレクトリを区別してファイルを保存することになります。

遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリスト(TelList.txt)を、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに準備して実施してください。

(1) 実行例について

(a) すべてのオプションをデフォルト値で実行する場合

本機能はすべてのオプションをデフォルト値で実行することはできません。設定パラメータ取得機能を実行する場合、必ず"m"オプションで、取得したパラメータファイルを保存する先を定義する必要があります。

(b) 指定のパラメータファイル名で保存する場合

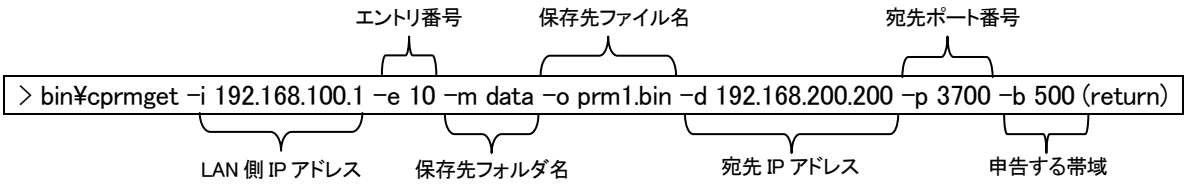
パラメータファイルを指定のファイル名(prm1.bin)で保存する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。但し、正常に実行するためには、"m"オプションで保存先のフォルダも設定する必要があります。

```
> bin¥cprmget -m data -o prm1.bin (return)
```

(c) コマンドオプションを複数使用し、指定のパラメータファイル名で保存する場合

- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス: 192.168.100.1
- エントリ番号: 10
- 取得パラメータファイルの保存先ファイル名: prm1.bin
- 宛先 IP アドレス: 192.168.200.200
- 宛先ポート番号: 3700
- 申告する帯域: 500
- SIP-TA(X)電話番号: ○○-○○○○-1111、SIP-TA(Y)電話番号: ○○-○○○○-2222

図 4.2-1 に示す構成例で上記設定にて設定パラメータを取得する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。(別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します)



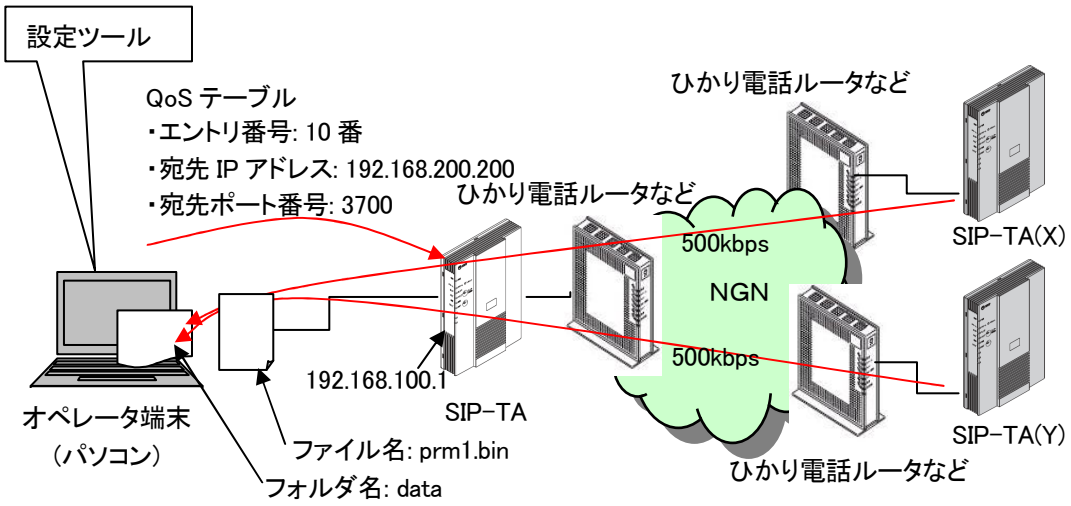


図 4.2-1 コマンドオプション使用時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、設定パラメータのダウンロードが適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は、3-3 を参照下さい。

設定パラメータ取得機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.2-2 に示します。

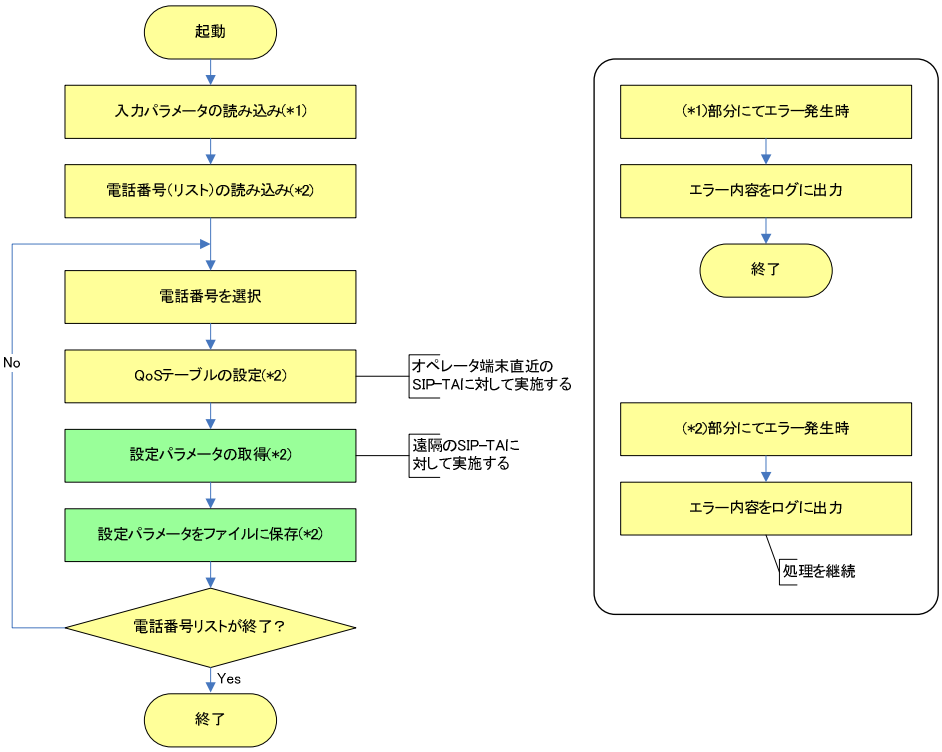


図 4.2-2 設定パラメータ取得の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、設定パラメータ取得以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号(リスト)の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

設定パラメータ取得機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.2-1 に示します。

”パラメータ範囲”の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.2-1 設定パラメータ取得機能で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	(なし)	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。	△ (*1)
-m	取得パラメータファイルを保存する、電話番号名のディレクトリの親ディレクトリ名	(なし)	テキスト形式のディレクトリ名	○
-o	取得パラメータファイルの保存先ファイル名	prm.bin	テキスト形式のファイル名	○
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合はそのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。(このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します)

設定パラメータ取得機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルは、SIP-TA 用のパラメータファイルです。

■4－3　設定パラメータ配布･適用機能■

設定パラメータ配布・適用機能について説明します。

設定パラメータ配布・適用機能の概要

本機能は、指定の設定パラメータファイルを対象とする複数の SIP-TA に対してアップロードします。アップロードする設定パラメータファイルは、ユーザーにて指定可能です。また、アップロード対象とする複数の SIP-TA に対し、それぞれ個別に設定パラメータファイルを指定することも可能です。
設定パラメータにはバージョン情報が設定されています。本機能を使用する場合、基本的には設定パラメータのバージョンアップが目的と想定されますが、バージョンダウンとなる設定パラメータを指定し、実行することも可能です。本設定ツールでは、現在の設定パラメータのバージョンと、アップロードする設定パラメータのバージョンをチェックして、本機能の実行を抑止しません。
操作対象とする SIP-TA は、電話番号リストファイルで管理します。SIP-TA 毎にアップロードする設定パラメータファイルを区別する場合、電話番号のディレクトリを用意して、そのディレクトリに設定パラメータファイルを配置します。
遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリスト（TelList.txt）を、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに準備して実施してください。

(1) 実行例について

(a) すべてのオプションをデフォルト値で実行する場合

すべてのオプションを、いずれもデフォルト値で実行する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cprmset (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・設定パラメータファイル(prm.bin)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(b) 指定の設定パラメータファイルを配布･適用する場合

指定の設定パラメータファイル(prm2.bin)を配布・適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cprmset -c prm2.bin (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・設定パラメータファイル(prm2.bin)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(c) 複数の SIP-TA に異なる設定パラメータファイルを配布・適用する場合

例えば、図 4.3-1 に示す構成例で、SIP-TA(X)に prm3.bin を、SIP-TA(Y)に prm4.bin を配布・適用する場合、まずは以下の準備を行います。

・本ソフトウェアをインストールしたフォルダに”data”という名前のフォルダを作成する
・“data”フォルダに、”〇〇〇〇〇〇1111”（←SIP-TA(X)の電話番号）と”〇〇〇〇〇〇2222”（←SIP-TA(Y)の電話番号）という名前のフォルダを作成する
・“data¥〇〇〇〇〇〇1111”のフォルダに「prm3.bin」のファイルを、また、”data¥〇〇〇〇〇〇2222”のフ

オルダに「prm4.bin」のファイルを、それぞれ「prm.bin」というファイル名で配置する

以上の準備が整ったら、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cprmset -m data (return)
```

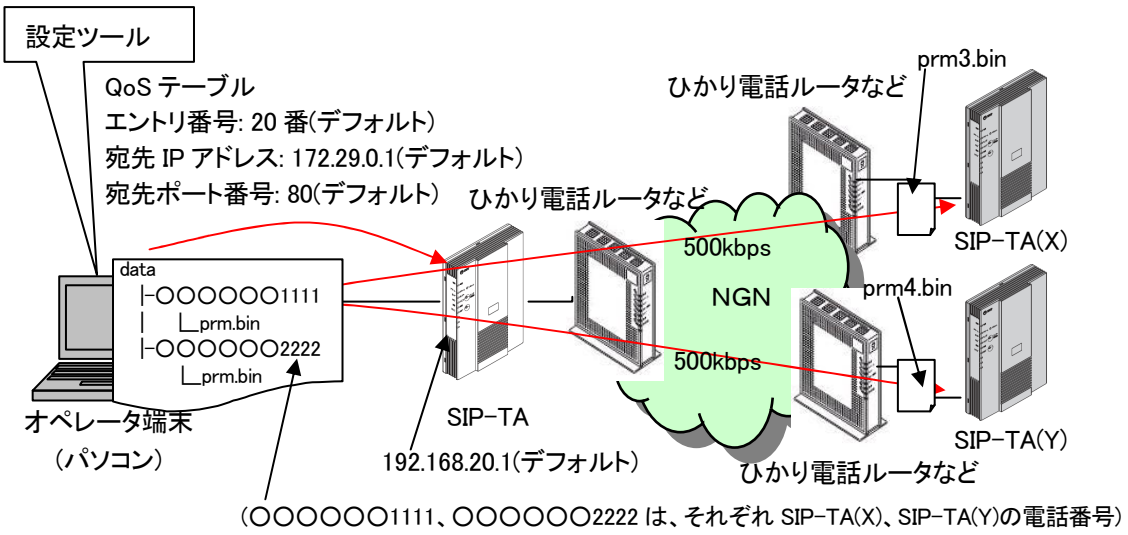
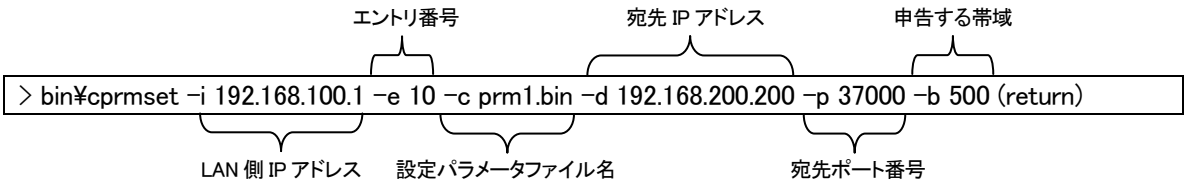


図 4.3-1 異なる設定パラメータ配布･適用時の構成例

(d) コマンドオプションを複数使用し、指定の設定パラメータファイルを配布･適用する場合
(クライアントサーバ形式のサービス運用におけるクライアント端末側の設定を想定)

- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス: 192.168.100.1
- エントリ番号: 10
- 配布･適用する設定パラメータファイル名: prm1.bin
- 宛先 IP アドレス: 192.168.200.200
- 宛先ポート番号: 37000
- 申告する帯域: 500
- SIP-TA(X)電話番号: OO-OOOO-1111、SIP-TA(Y)電話番号: OO-OOOO-2222

図 4.3-2 に示す構成例で上記設定にて設定パラメータを適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。(別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します)



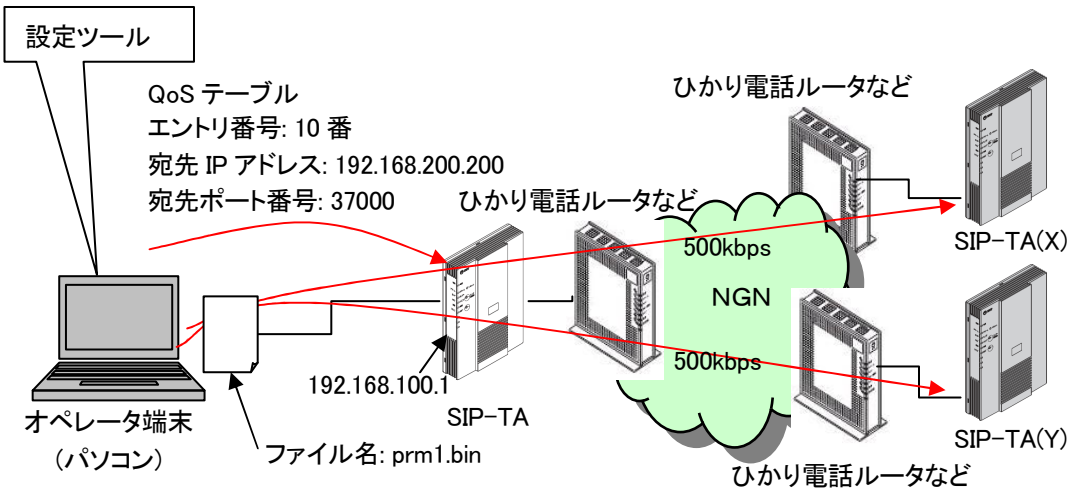


図 4.3-2 同一設定パラメータ配布･適用時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、設定パラメータのアップロードが適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は、3-3 を参照下さい。

設定パラメータ配布･適用機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.3-3 に示します。

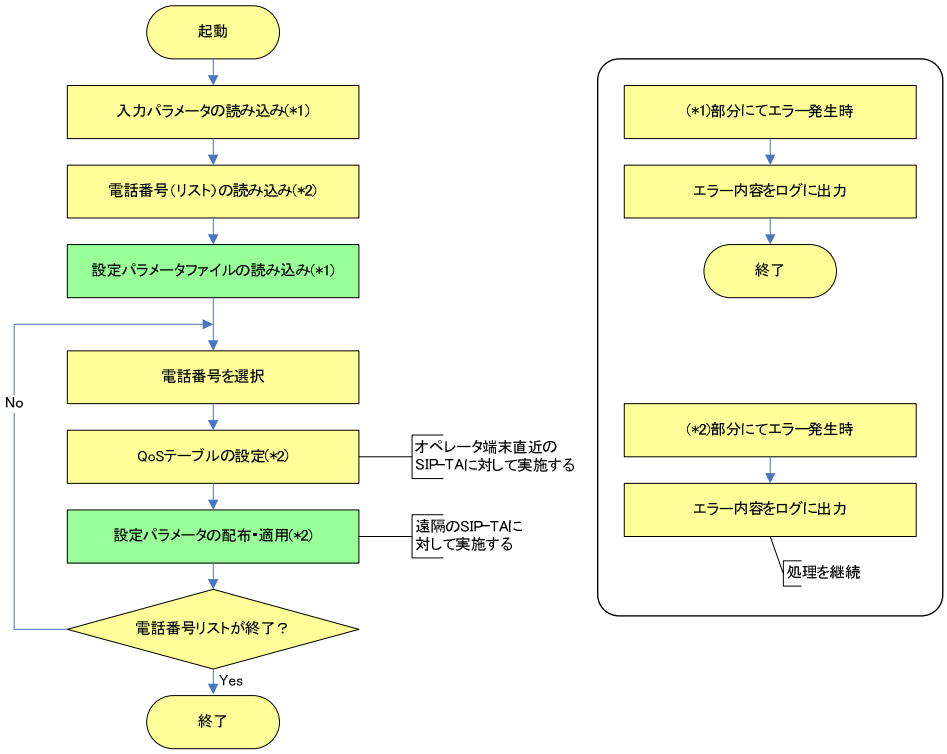


図 4.3-3 設定パラメータ配布･適用の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、設定パラメータ配布・適用以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号（リスト）の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

設定パラメータ配布・適用機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.3-1 に示します。

”パラメータ範囲”の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.3-1 設定パラメータ配布・適用で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	(なし)	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。	△ (*1)
-m	設定パラメータファイルが置かれている電話番号名のディレクトリの親ディレクトリ名	(なし)	テキスト形式のディレクトリ名	△ (*2)
-c	設定パラメータファイル名	prm.bin	テキスト形式のファイル名	○ (*2)
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合はそのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。(このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します)

(*2)コマンドラインオプションの”-m”を指定しなかった場合、”-c”に指定するファイル名(パス名)は絶対パス、相対パスのどちらでも設定が可能です。相対パスの場合(ファイル名のみの指定の場合も含む)、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスとなります。
また、”-m”を指定した場合、”-c”で指定できるのはファイル名のみとなります。例えば、”-m”に「a/b/c」を、”-c”に「prm_test.bin」を指定した場合、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスが「/a/b/c/電話番号/prm_test.bin」であるファイルを電話番号が対応する SIP-TA に配布・適用することになります。
”-m”を指定しなかった場合、適用するファームウェアファイルは”-c”で指定されたものか、そのデフォルト値である「prm.bin」の 1 種類のみとなり、SIP-TA 毎に区別することはできません。SIP-TA 毎に設定パラメータファイルを区別したい場合は”-m”を指定する必要があります。

設定パラメータ配布・適用機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルは、SIP-TA 用のパラメータファイルです。配布実施前に不正ファイルでないかを本設定ツールでチェックします。不正ファイルである場合は、ログに記録し処理を中断します。但し、設定パラメータファイルの中身が壊れている等の場合、SIP-TA に適用する際にエラーが発生することがあります。この場合、本設定ツールのログファイルにエラーが出力されます。

■4－4　QoS テーブル設定機能■

QoS テーブル設定機能について説明します。

QoS テーブル設定機能の概要

本機能は、QoS テーブル設定のエントリデータを対象とする複数の SIP-TA に対して配布･適用します。QoS テーブル設定のエントリデータを CSV 形式で記述したファイルを読み込んで使用します。1 エントリデータ分を 1 行で記述し、複数のエントリデータを必要とする場合はその個数分の行数を記述します。配布･適用する CSV ファイルは、ユーザーにて指定可能です。また、配布･適用対象とする複数の SIP-TA に対し、それぞれ個別に CSV ファイルを指定することも可能です。
操作対象とする SIP-TA は、電話番号リストファイルで管理します。SIP-TA 毎に配布･適用する CSV ファイルを区別する場合、電話番号のディレクトリを用意して、そのディレクトリに CSV ファイルを配置します。
遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリスト（TelList.txt）を、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに準備して実施してください。

(1) 実行例について

(a) すべてのオプションをデフォルト値で実行する場合

すべてのオプションを、いずれもデフォルト値で実行する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cqostbl (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・QoS テーブル設定のエントリデータファイル(qostable.csv)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(b) 指定のエントリデータファイルの内容を設定する場合

指定のエントリデータファイル(qostable_new.csv)の内容を設定する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cqostbl -q qostable_new.csv (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・QoS テーブル設定のエントリデータファイル(qostable_new.csv)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(c) 複数の SIP-TA に異なるエントリデータファイルの内容を設定する場合

例えば、SIP-TA(X)に qos1.csv を、SIP-TA(Y)に qos2.csv の内容を設定する場合、まずは以下の準備を行います。

・本ソフトウェアをインストールしたフォルダに”data”という名前のフォルダを作成する
・”data”フォルダに、”〇〇〇〇〇〇1111”（←SIP-TA(X)の電話番号）と”〇〇〇〇〇〇2222”（←SIP-TA(Y)の電話番号）という名前のフォルダを作成する
・”data¥〇〇〇〇〇〇1111”のフォルダに「qos1.csv」のファイルを、また、”data¥〇〇〇〇〇〇2222”のフォルダに「qos2.csv」のファイルを、それぞれ「qostable.csv」というファイル名で配置する

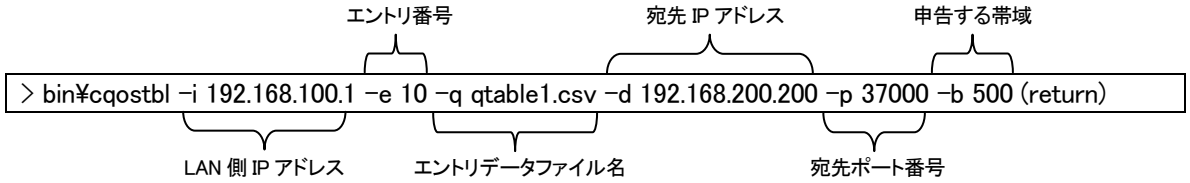
以上の準備が整ったら、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cqostbl -m data (return)
```

(d) コマンドオプションを複数使用し、指定のエントリデータファイルを配布・適用する場合
(クライアントサーバ形式のサービス運用におけるクライアント端末側の設定を想定)

- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス: 192.168.100.1
- エントリ番号: 10
- 配布・適用するエントリデータファイル名: qtable1.csv
- 宛先 IP アドレス: 192.168.200.200
- 宛先ポート番号: 37000
- 申告する帯域: 500
- SIP-TA(X)電話番号: ○○-○○○○-1111、SIP-TA(Y)電話番号: ○○-○○○○-2222

図 4.4-1 に示す構成例で上記設定にて設定パラメータを適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。(別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します)



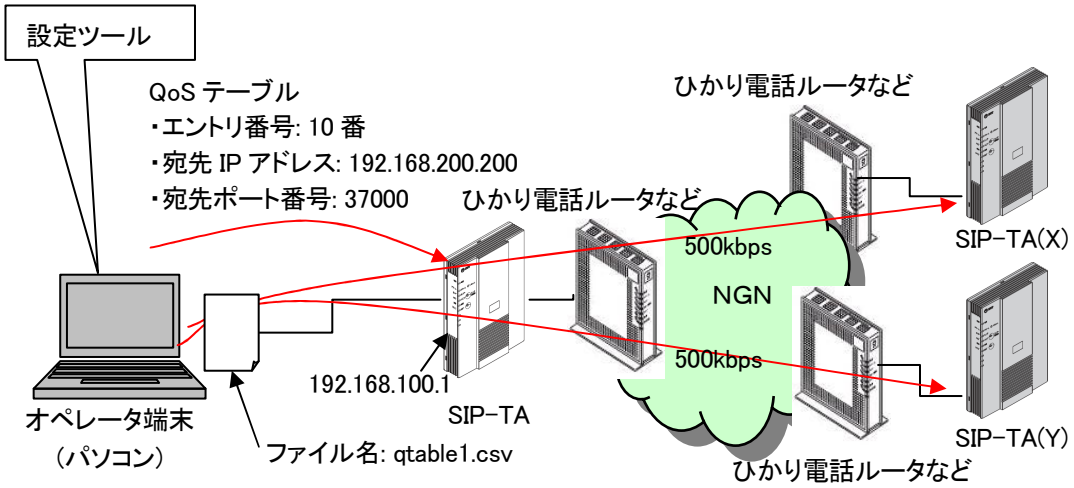


図 4.4-1 同一エントリデータファイル配布・適用時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、QoS テーブル設定のエントリデータの配布・適用が適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は、3-3 を参照下さい。

QoS テーブル設定機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.4-2 に示します。

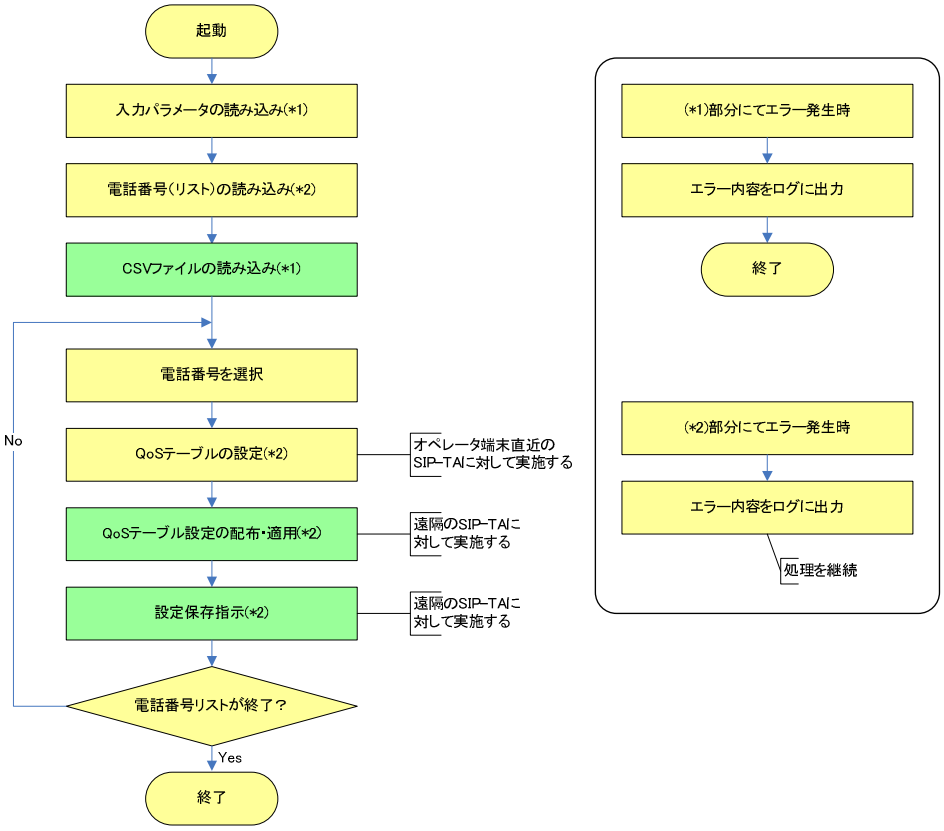


図 4.4-2 QoS テーブル設定の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、QoS テーブル設定以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号(リスト)の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

QoS テーブル設定機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.4-1 に示します。

”パラメータ範囲”の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.4-1 QoS テーブル設定機能で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	(なし)	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。	△ (*1)
-m	設定パラメータファイルが置かれている電話番号名のディレクトリの親ディレクトリ名	(なし)	テキスト形式のディレクトリ名	△ (*2)
-q	QoS テーブル設定で使用するエントリデータを記述した CSV ファイル名	qostable.csv	テキスト形式のファイル名	○ (*2)
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合はそのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。(このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します)

(*2)コマンドラインオプションの”-m”を指定しなかった場合、”-q”に指定するファイル名(パス名)は絶対パス、相対パスのどちらでも設定が可能です。相対パスの場合(ファイル名のみの指定の場合も含む)、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスとなります。
また、”-m”を指定した場合、”-q”で指定できるのはファイル名のみとなります。例えば、”-m”に「a/b/c」を、”-q”に「qostable_test.csv」を指定した場合、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスが「/a/b/c/電話番号/qostable_test.csv」であるファイルから取得したエントリデータを電話番号が対応する SIP-TA に配布・適用することになります。
”-m”を指定しなかった場合、適用するエントリデータファイルは”-q”で指定されたものか、そのデフォルト値である「qostable.csv」の 1 種類のみとなり、SIP-TA 毎に区別することはできません。SIP-TA 毎に QoS テーブル設定のエントリデータファイルを区別したい場合は”-m”を指定する必要があります。

QoS テーブル設定機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルについて説明します。

使用する CSV ファイルのフォーマットを表 4.4-2 に示します。

表 4.4-2 QoS テーブル設定で使用する CSV ファイルのフォーマット

No	項目	値
1	エントリ番号	1～100
2	有効／無効	1:有効、0:無効
3	送信元 IP アドレス	0.0.0.0～255.255.255.254
4	送信元ポート番号	0～65535
5	宛先 IP アドレス	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません
6	宛先ポート番号	1～65535
7	電話番号	0-9、#(1～32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。
8	電話番号(予備)	0-9、#(0～32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。
9	グループ番号	0～65535
10	メディア情報・帯域幅	1～1000
11	メディア情報・フォーマット	0: octet-stream、 1: http
12	最大 SIP セッション数	0～32
13	最大メディアストリーム数	0～160
14	無通信状態判定時間指定	0:デフォルト値、1:指定値
15	無通信状態判定時間[sec]	10～3600

複数のエントリデータを同時に設定する場合は、1 エントリデータにつき 1 行で、必要な情報を CSV ファイルに入力します。

CSV ファイル中に指定可能な上記各設定項目の値が範囲外であった場合は、エラーを含む CSV ファイルと判断し、その CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

また、表 4.4-2 の No.3、 No.4、 No.5、 No.6 の 4 つの項目が同一であるエントリが複数ある場合、重複設定によるエラーを含む CSV ファイルと判断し、この場合も CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

また表 4.4-2 の No.9 グループ番号が 0 以外の値である場合、同一のグループ番号を持つエントリ間では、No.7 と No.8 の電話番号が一致していないとエラーと判断し、この場合も CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

また、No.14 にて 0:デフォルト値を設定した場合は、No.15 にていかなる値を設定しても 600 として設定されます。

No.7 と No.8 の電話番号が一致している場合はエラーと判断し、この場合も CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

■4－5　着呼テーブル設定機能■

着呼テーブル設定機能について説明します。

着呼テーブル設定機能の概要

本機能は、着呼テーブル設定のエントリデータを対象とする複数の SIP-TA に対して配布･適用します。着呼テーブル設定のエントリデータを CSV 形式で記述したファイルを読み込んで使用します。1 エントリデータ分を 1 行で記述し、複数のエントリデータを必要とする場合はその個数分の行数を記述します。配布･適用する CSV ファイルは、ユーザーにて指定可能です。また、配布･適用対象とする複数の SIP-TA に対し、それぞれ個別に CSV ファイルを指定することも可能です。
操作対象とする SIP-TA は、電話番号リストファイルで管理します。SIP-TA 毎に配布･適用する CSV ファイルを区別する場合、電話番号のディレクトリを用意して、そのディレクトリに CSV ファイルを配置します。
遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリスト（TelList.txt）を、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに準備して実施してください。

(1) 実行例について

(a) すべてのオプションをデフォルト値で実行する場合

すべてのオプションを、いずれもデフォルト値で実行する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥crcvtbl (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・着呼テーブル設定のエントリデータファイル(receivetable.csv)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(b) 指定のエントリデータファイルの内容を設定する場合

指定のエントリデータファイル(receivetable_new.csv)の内容を設定する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥crcvtbl -r receivetable_new.csv (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・着呼テーブル設定のエントリデータファイル(receivetable_new.csv)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(c) 複数の SIP-TA に異なるエントリデータファイルの内容を設定する場合

例えば、SIP-TA(X)にreceive1.csvを、SIP-TA(Y)にreceive2.csvの内容を設定する場合、まずは以下の準備を行います。

・本ソフトウェアをインストールしたフォルダに”data”という名前のフォルダを作成する
・”data”フォルダに、”〇〇〇〇〇〇1111”（←SIP-TA(X)の電話番号）と”〇〇〇〇〇〇2222”（←SIP-TA(Y)の電話番号）という名前のフォルダを作成する
・”data¥〇〇〇〇〇〇1111”のフォルダに「receive1.csv」のファイルを、また、”data¥〇〇〇〇〇〇2222”のフォルダに「receive2.csv」のファイルを、それぞれ「receivetable.csv」というファイル名で配置する

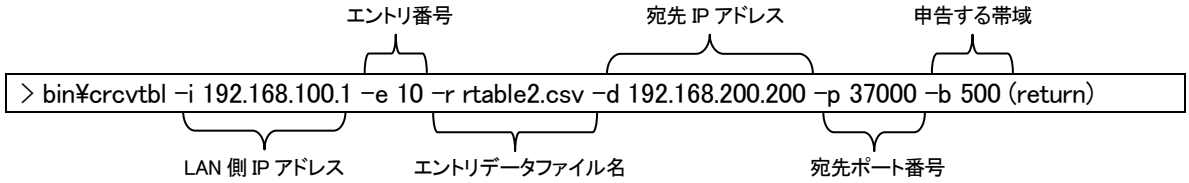
以上の準備が整ったら、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥crcvtbl -m data (return)
```

(d) コマンドオプションを複数使用し、指定のエントリデータファイルを配布・適用する場合
(クライアントサーバ形式のサービス運用におけるクライアント端末側の設定を想定)

- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス: 192.168.100.1
- エントリ番号: 10
- 配布・適用するエントリデータファイル名: rtable2.csv
- 宛先 IP アドレス: 192.168.200.200
- 宛先ポート番号: 37000
- 申告する帯域: 500
- SIP-TA(X)電話番号: ○○-○○○○-1111、SIP-TA(Y)電話番号: ○○-○○○○-2222

図 4.5-1 に示す構成例で上記設定にて設定パラメータを適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。(別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します)



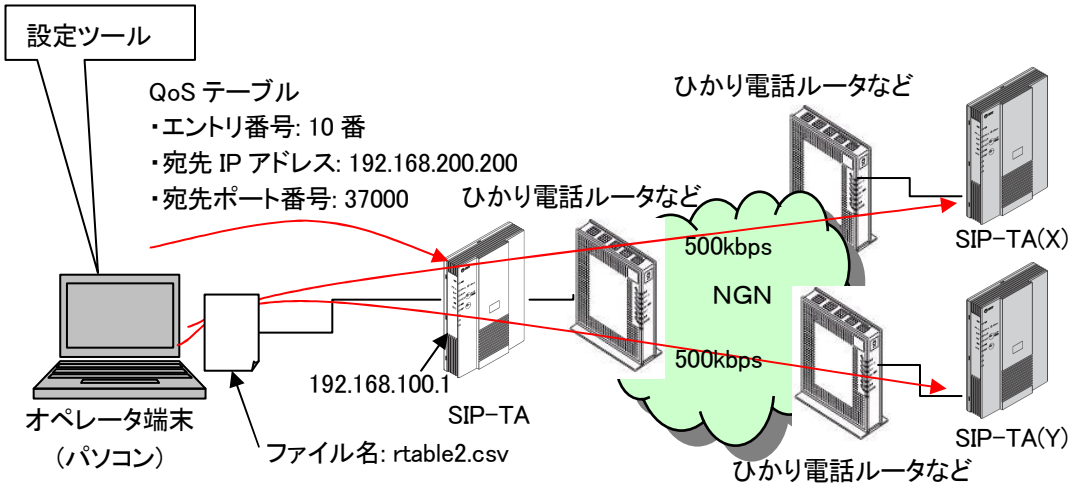


図 4.5-1 同一エントリデータファイル配布・適用時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、着呼テーブル設定のエントリデータの配布・適用が適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は、3-3 を参照下さい。

着呼テーブル設定機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.5-2 に示します。

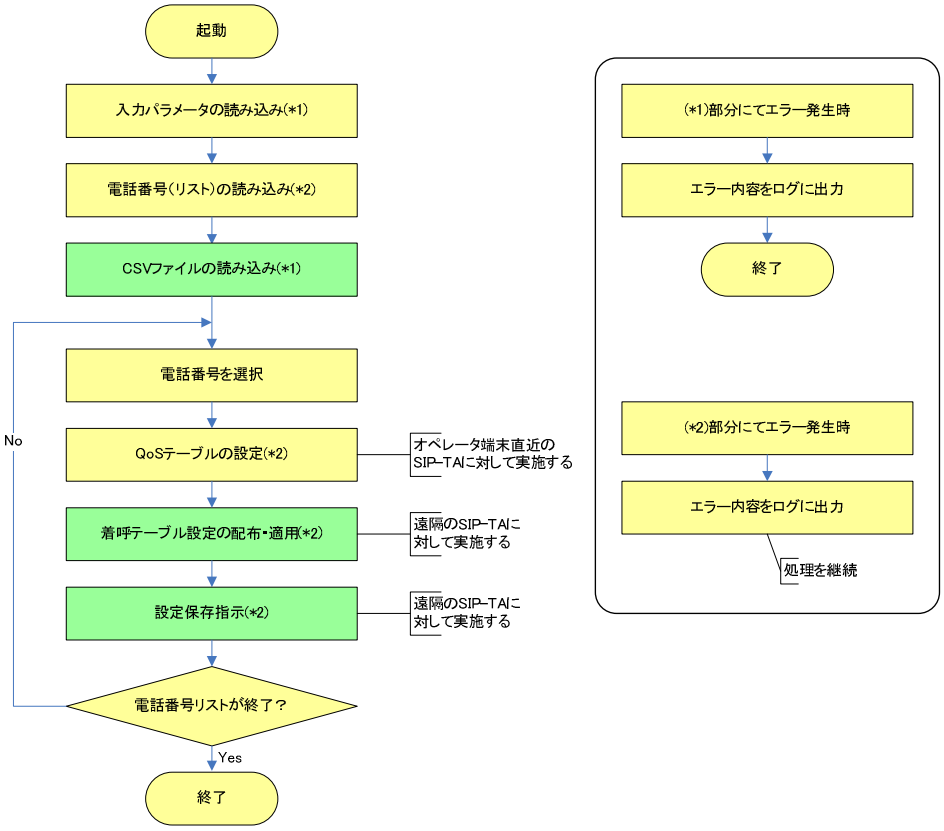


図 4.5-2 着呼テーブル設定の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、着呼テーブル設定以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号(リスト)の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

着呼テーブル設定機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.5-1 に示します。

”パラメータ範囲”の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.5-1 着呼テーブル設定機能で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	（なし）	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119（184/186 含む）は指定できません。	△ (*1)
-m	設定パラメータファイルが置かれている電話番号名のディレクトリの親ディレクトリ名	（なし）	テキスト形式のディレクトリ名	△ (*2)
-r	着呼テーブル設定で使用するエントリデータを記述した CSV ファイル名	receivetable.csv	テキスト形式のファイル名	○ (*2)
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合はそのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。（このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します）

(*2)コマンドラインオプションの”-m”を指定しなかった場合、”-r”に指定するファイル名（パス名）は絶対パス、相対パスのどちらでも設定が可能です。相対パスの場合（ファイル名のみの指定の場合も含む）、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスとなります。
また、”-m”を指定した場合、”-r”で指定できるのはファイル名のみとなります。例えば、”-m”に「a/b/c」を、”-r”に「receivetable_test.csv」を指定した場合、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスが「/a/b/c/電話番号/receivetable_test.csv」であるファイルから取得したエントリデータを電話番号が対応する SIP-TA に配布・適用することになります。
”-m”を指定しなかった場合、適用するファームウェアファイルは”r”で指定されたものか、そのデフォルト値である「receivetable.csv」の 1 種類のみとなり、SIP-TA 毎に区別することはできません。SIP-TA 毎に着

呼テーブル設定のエントリデータファイルを区別したい場合は”-m”を指定する必要があります。

着呼テーブル設定機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルについて説明します。
使用する CSV ファイルのフォーマットを表 4.5-2 に示します。

表 4.5-2 着呼テーブル設定で使用する CSV ファイルのフォーマット

No	項目	値
1	エントリ番号	1～50
2	有効／無効	1:有効、0:無効
3	宛先電話番号	0-9(0～32 桁) 110/118/119(184/186 含む) は指定できません。
4	着信先 IP アドレス	1.0.0.0～223.255.255.254
5	着信先ポート番号	1～65535
6	最大 SIP セッション数	0～32
7	最大メディアストリーム数	0～160

複数のエントリデータを同時に設定する場合は、1 エントリデータにつき 1 行で、必要な情報を CSV ファイルに入力します。CSV ファイル中に指定可能な上記各設定項目の値が範囲外であった場合は、エラーを含む CSV ファイルと判断し、その CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

また、表 4.5-2 の No.3 の宛先電話番号が同一であるエントリが複数ある場合、重複設定によるエラーを含む CSV ファイルと判断し、この場合も CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

■4－6　発番認証設定機能■

発番認証設定機能について説明します。

発番認証設定機能の概要

本機能は、発番認証設定のエントリデータを対象とする複数の SIP-TA に対して配布･適用します。また各 SIP-TA に対する発信者番号認証モードの設定も合わせて行います。
発番認証設定のエントリデータを CSV 形式で記述したファイルを読み込んで使用します。1 エントリデータ分を 1 行で記述し、複数のエントリデータを必要とする場合はその個数分の行数を記述します。配布・適用する CSV ファイルは、ユーザーにて指定可能です。また、配布・適用対象とする複数の SIP-TA に対し、それぞれ個別に CSV ファイルを指定することも可能です。

操作対象とする SIP-TA は、電話番号リストファイルで管理します。SIP-TA 毎に配布・適用する CSV ファイルを区別する場合、電話番号のディレクトリを用意して、そのディレクトリに CSV ファイルを配置します。

(1) 実行例について

(a) すべてのオプションをデフォルト値で実行する場合

すべてのオプションを、いずれもデフォルト値で実行する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥caththtbl (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・発番認証設定のエントリデータファイル(hatsuban.csv)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(b) 指定のエントリデータファイルの内容を設定する場合

指定のエントリデータファイル(hatsuban_new.csv)の内容を設定する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥caththtbl -a hatsuban_new.csv (return)
```

本機能を正常に動作させるためには、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに以下のファイルを準備しておく必要があります。

・発番認証設定のエントリデータファイル(hatsuban_new.csv)
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

(c) 複数の SIP-TA に異なるエントリデータファイルの内容を設定する場合

例えば、SIP-TA(X)に hatsu1.csv を、SIP-TA(Y)に hatsu2.csv の内容を設定する場合、まずは以下の準備を行います。

・本ソフトウェアをインストールしたフォルダに”data”という名前のフォルダを作成する
・”data”フォルダに、”〇〇〇〇〇〇1111”（←SIP-TA(X)の電話番号）と”〇〇〇〇〇〇2222”（←SIP-TA(Y)の電話番号）という名前のフォルダを作成する
・”data¥〇〇〇〇〇〇1111”のフォルダに「hatsu1.csv」のファイルを、また、”data¥〇〇〇〇〇〇2222”のフォルダに「hatsu2.csv」のファイルを、それぞれ「hatsuban.csv」というファイル名で配置する

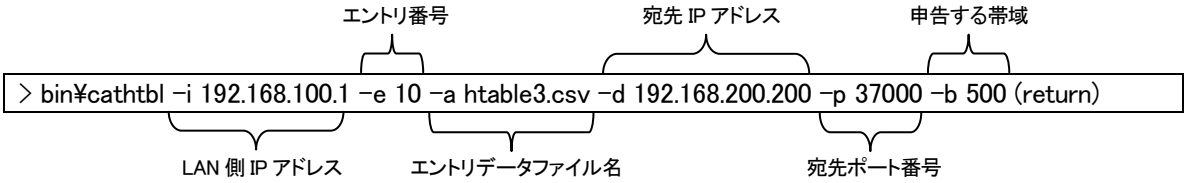
以上の準備が整ったら、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cathtbl -m data (return)
```

(d) コマンドオプションを複数使用し、指定のエントリデータファイルを配布・適用する場合
(クライアントサーバ形式のサービス運用におけるクライアント端末側の設定を想定)

- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス: 192.168.100.1
- エントリ番号: 10
- 配布・適用するエントリデータファイル名: htable3.csv
- 宛先 IP アドレス: 192.168.200.200
- 宛先ポート番号: 37000
- 申告する帯域: 500
- SIP-TA(X)電話番号: ○○-○○○○-1111、SIP-TA(Y)電話番号: ○○-○○○○-2222

図 4.6-1 に示す構成例で上記設定にて設定パラメータを適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。(別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します)



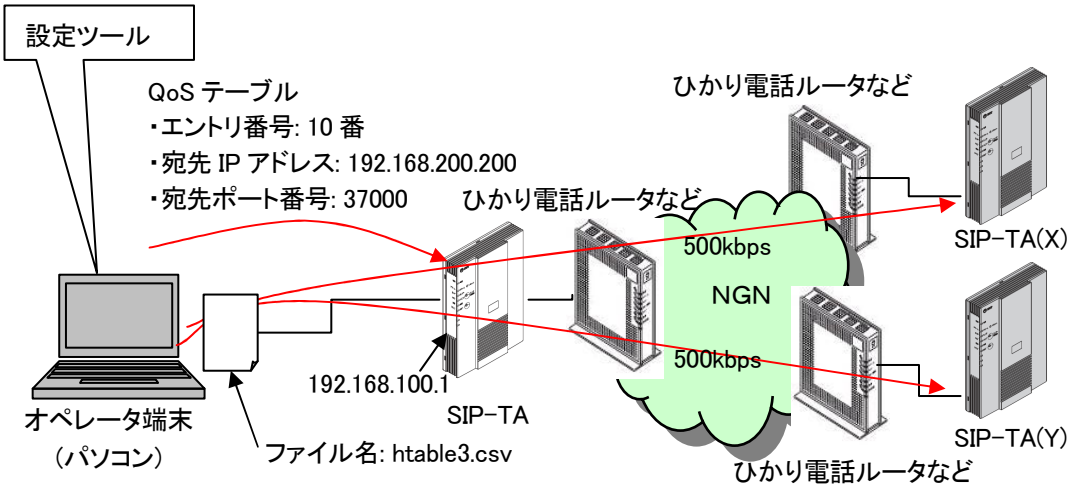


図 4.6-1 同一エントリデータファイル配布・適用時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、発番認証モードの設定、及び発番認証設定のエントリデータの配布・適用が適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は、3-3 を参照下さい。

発番認証設定機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.6-2 に示します。

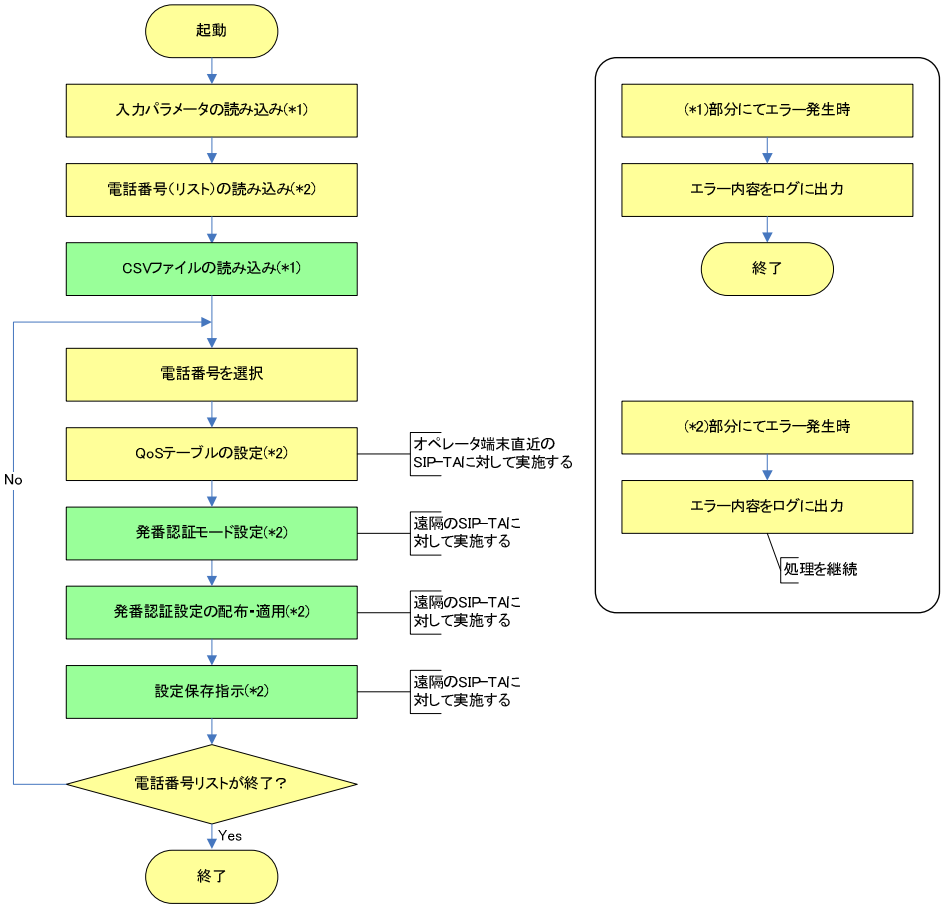


図 4.6-2 発番認証設定の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、発番認証設定以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号(リスト)の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

発番認証設定機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.6-1 に示します。

”パラメータ範囲”の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.6-1　発番認証設定機能で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	（なし）	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。	△ (*1)
-m	設定パラメータファイルが置かれている電話番号名のディレクトリの親ディレクトリ名	（なし）	テキスト形式のディレクトリ名	△ (*2)
-a	発番認証設定で使用するエントリデータを記述した CSV ファイル名	hatsuban.csv	テキスト形式のファイル名	○ (*2)
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合はそのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。(このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します)

(*2)コマンドラインオプションの”-m”を指定しなかった場合、”-a”に指定するファイル名(パス名)は絶対パス、相対パスのどちらでも設定が可能です。相対パスの場合(ファイル名のみの指定の場合も含む)、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスとなります。
また、”-m”を指定した場合、”-a”で指定できるのはファイル名のみとなります。例えば、”-m”に「a/b/c」を、”-a”に「hatsuban_test.csv」を指定した場合、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスが「/a/b/c/電話番号/hatsuban_test.csv」であるファイルから取得したエントリデータを電話番号が対応する SIP-TA に配布・適用することになります。
”-m”を指定しなかった場合、適用するファームウェアファイルは”-a”で指定されたものか、そのデフォルト値である「hatsuban.csv」の 1 種類のみとなり、SIP-TA 毎に区別することはできません。SIP-TA 毎に発番

認証設定のエントリデータファイルを区別したい場合は"-m"を指定する必要があります。

発番認証設定機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルについて説明します。

発番認証モード設定で使用する CSV ファイルのフォーマットを表 4.6-2 に示します。これは、当該 CSV ファイルの 1 行目のみを読み込んで使用します。

表 4.6-2 発番認証モード設定で使用する CSV ファイルのフォーマット

No	項目	値
1	モード	0:無効、1:拒否、2:許可

発番認証設定で使用する CSV ファイルのフォーマットを表 4.6-3 に示します。これは、当該 CSV ファイルの 2 行目以降を読み込んで使用します。

表 4.6-3 発番認証設定で使用する CSV ファイルのフォーマット

No	項目	値
1	エントリ番号	1～50
2	有効／無効	1:有効、0:無効
3	発信者番号	0:電話番号指定、1:通知あり、2:非通知
4	電話番号	No.3 が 0 の場合 0-9(1～32 桁)場合 但し、110/118/119（184/186 含む）は指定できません。 No.3 が 1 または 2 の場合、値なし(0 桁)
5	宛先電話番号	0-9(0～32 桁) 110/118/119（184/186 含む）は指定できません。

複数のエントリデータを同時に設定する場合は、1 エントリデータにつき 1 行で、必要な情報を CSV ファイルに入力します。

CSV ファイル中に指定可能な上記各設定項目の値が範囲外であった場合は、エラーを含む CSV ファイルと判断し、その CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

また、表 4.6-3 の No.3、 No.4、 No.5 の 3 つの項目が同一であるエントリが複数ある場合、重複設定によるエラーを含む CSV ファイルと判断し、この場合も CSV ファイル中のエントリデータは一切送信しません。

■4－7　再起動指示機能■

再起動指示機能について説明します。

再起動指示機能の概要

本機能は、対象とする複数の SIP-TA に対して装置の再起動を指示します。
ただし、確立中の SIP セッションが 2 本以上ある場合（1 本は本設定ツールが使用しているセッション）は再起動指示を行ないません。

遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリスト（TelList.txt）を、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに準備して実施してください。

(1) 実行例について

(a) 複数の SIP-TA に再起動指示する場合

例えば、SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)に再起動指示する場合、まずは以下の準備を行います。

・SIP-TA(X)の電話番号(=〇〇〇〇〇〇1111)と SIP-TA(Y)の電話番号(=〇〇〇〇〇〇2222)を順に記入した電話番号リストファイル(=TelList.txt)を用意する

以上の準備が整ったら、以下のコマンドを入力し、実行します。

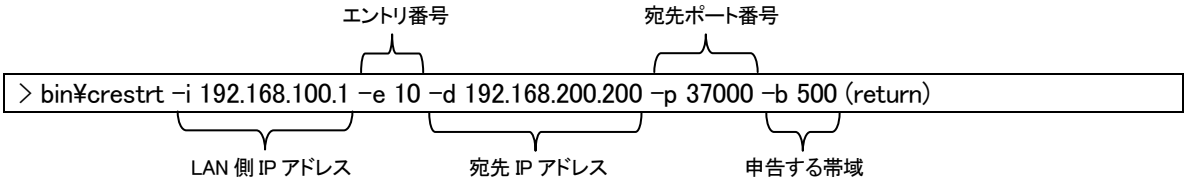
```
> bin¥crestrt (return)
```

(b) コマンドオプションを複数使用し、再起動指示する場合

(クライアントサーバ形式のサービス運用におけるクライアント端末側の設定を想定)

- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス： 192.168.100.1
- エントリ番号： 10
- 宛先 IP アドレス： 192.168.200.200
- 宛先ポート番号： 37000
- 申告する帯域： 500
- SIP-TA(X)電話番号： 〇〇-〇〇〇〇-1111、SIP-TA(Y)電話番号： 〇〇-〇〇〇〇-2222

図 4.7-1 に示す構成例で上記設定にて設定パラメータを適用する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。(別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します)



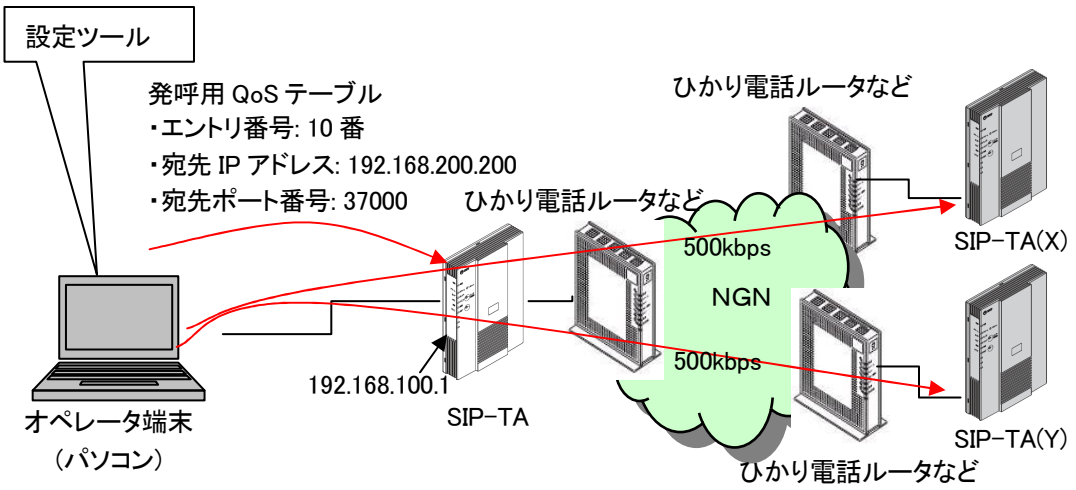


図 4.7-1 コマンドオプションを使用して再起動指示実施時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、再起動指示が適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は、3-3 を参照下さい。

再起動指示機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.7-2 に示します。

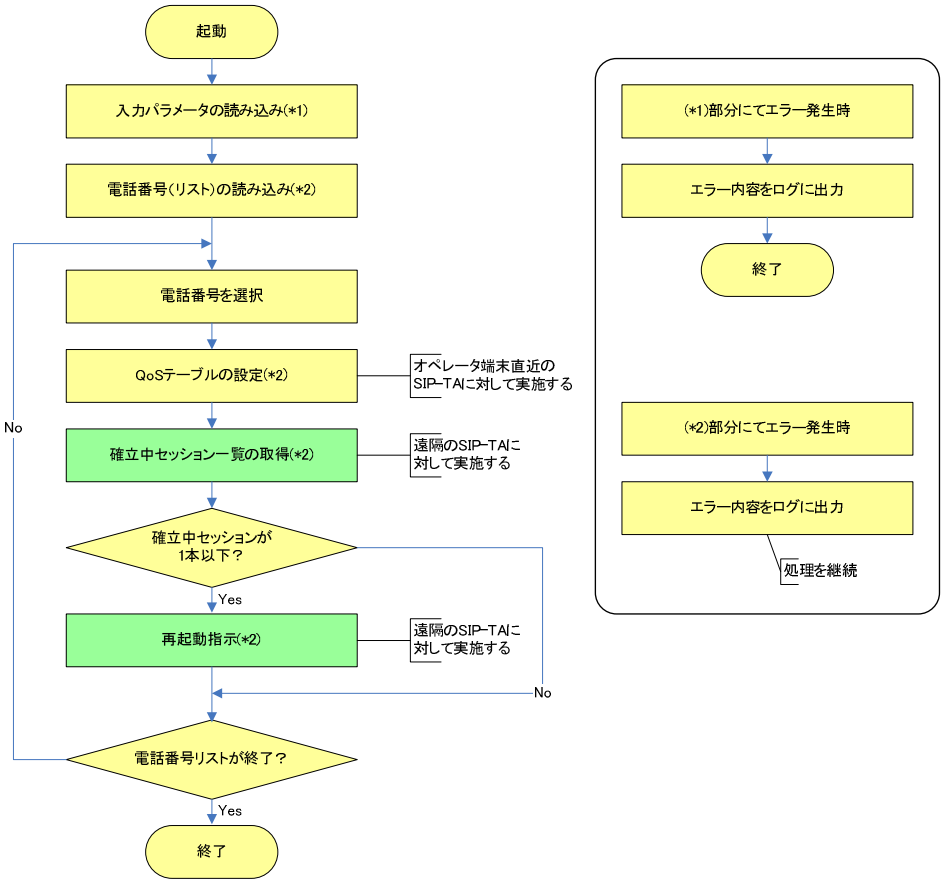


図 4.7-2 再起動指示の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、再起動指示以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号(リスト)の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

再起動指示機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.7-1 に示します。

”パラメータ範囲”の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.7-1 再起動指示機能で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	（なし）	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。	△ (*1)
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合はそのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。(このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します)

再起動指示機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルは特にありません。

■4－8　ファームウェアバージョン取得機能■

ファームウェアバージョン取得機能について説明します。

ファームウェアバージョン取得機能の概要

本機能は、対象とする複数の SIP-TA からそれぞれのファームウェアバージョンを取得します。
遠隔操作対象となる SIP-TA の電話番号のリスト（TelList.txt）を、本ソフトウェアをインストールしたフォルダに準備して実施してください。

（1）実行例について

（a）すべてのオプションをデフォルト値で実行する場合

すべてのオプションを、いずれもデフォルト値で実行する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cfwvrdl (return)
```

実行した結果、本ソフトウェアをインストールしたフォルダの「FirmVersion.txt」に、電話番号リスト(=TelList.txt)に電話番号が記載された SIP-TA 全台のファームウェアバージョンが書き込まれます。
また、以下のファイルを準備しておく必要があります。
・電話番号リストのファイル(TelList.txt)

（b）SIP-TA 毎に保存するファイルを用意する場合

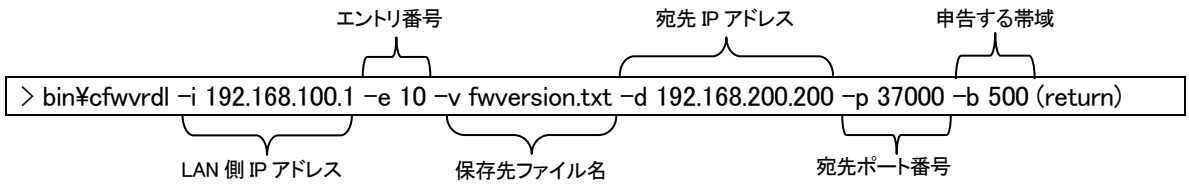
各 SIP-TA のファームウェアバージョンを、いずれも「fwver.txt」のファイル名のファイルに保存する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。

```
> bin¥cfwvrdl -m data -v fwver.txt (return)
```

（c）コマンドオプションを複数使用し、ひとつのファイルにファームウェアバージョンを保存する場合

- オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス： 192.168.100.1
- エントリ番号： 10
- 取得ファームウェアバージョンの保存先ファイル名： fwversion.txt
- 宛先 IP アドレス： 192.168.200.200
- 宛先ポート番号： 37000
- 申告する帯域： 500
- SIP-TA(X)電話番号： ○○-○○○○-1111、SIP-TA(Y)電話番号： ○○-○○○○-2222

図 4.8-1 に示す構成例で上記設定にて設定パラメータを取得する場合、以下のコマンドを入力し、実行します。（別途 SIP-TA(X)と SIP-TA(Y)の 2 つの電話番号を記述した図 3.1-1 のような TelList.txt を準備します）



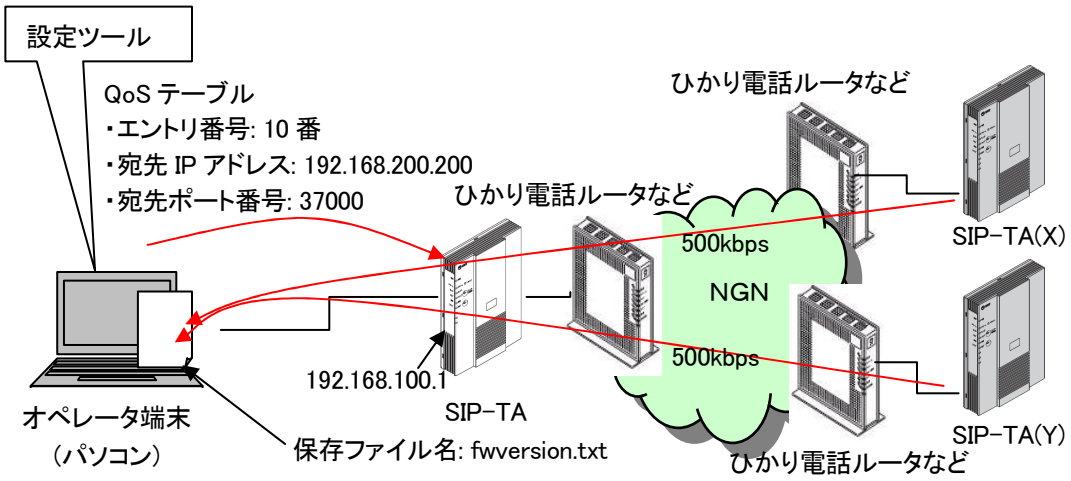


図 4.8-1 コマンドオプション使用時の構成例

(2) ログ出力

本機能を実行した際、ファームウェアバージョン取得が適切に行われたかどうかをログに出力します。ログ出力の詳細は、3-3 を参照下さい。

ファームウェアバージョン取得機能の処理フロー

本機能の処理フローの概要を図 4.8-2 に示します。

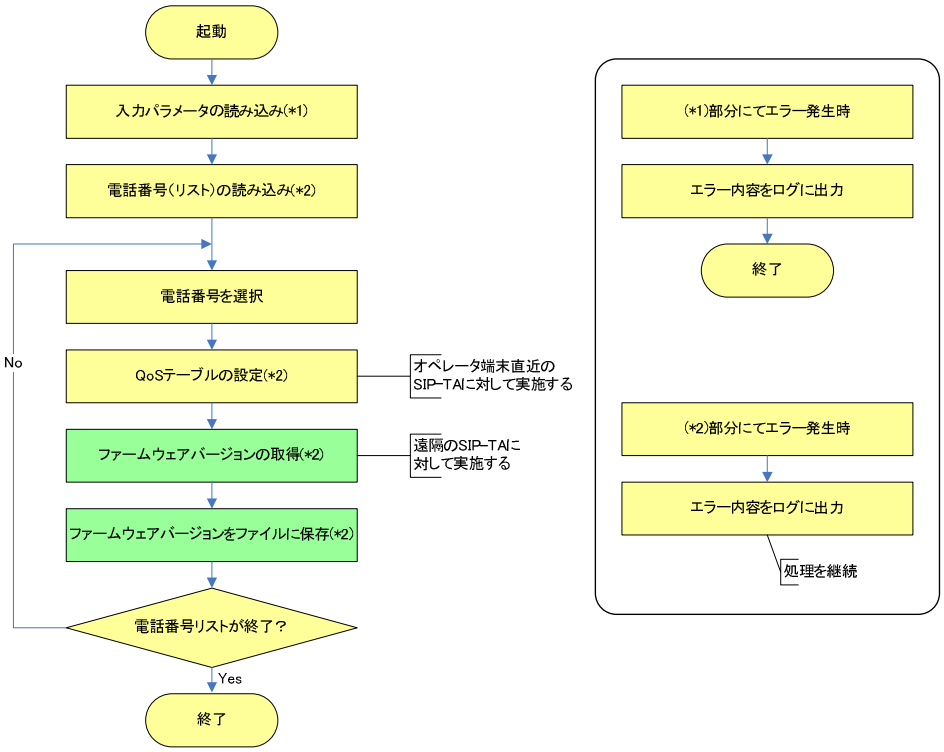


図 4.8 -2 ファームウェアバージョン取得の処理フロー

なお、背景色が黄色の処理は、ファームウェアバージョン取得以外の他の機能と共通に使用するものであることを表します。

設定ファイルや電話番号(リスト)の読み込みに失敗した場合、パラメータ値が不正であった場合、本設定ツールの実行を中止します。また、電話番号リスト内の個々の電話番号に対して、つまり、個々の SIP-TA に対して処理を実行する際にエラーを検知した場合、当該 SIP-TA に対する処理を中断し、電話番号リスト内の次の SIP-TA に処理を移します。

ファームウェアバージョン取得機能のコマンドラインオプション

本機能で使用するコマンドラインオプションを表 4.8-1 に示します。

”パラメータ範囲” の列に記載されている範囲外の値が指定された場合、本設定ツールはそのパラメータ値を不正と判定します。

表 4.8-1 ファームバージョン取得機能で使用するコマンドラインオプション一覧

オプション	意味	デフォルト値	パラメータ範囲	必須
-i	オペレータ端末直近の SIP-TA の LAN 側 IP アドレス	192.168.20.1	1.0.0.0～223.255.255.254	○
-e	遠隔 SIP-TA への管理操作用の QoS テーブルエントリを、オペレータ端末直近の SIP-TA に設定する際の QoS テーブルエントリ番号	20	1～100	○
-l	管理操作対象の SIP-TA に対応する電話番号リストのファイル名	TelList.txt	テキスト形式のファイル名	△ (*1)
-t	管理操作対象の SIP-TA が 1 台の場合の、該当する SIP-TA の電話番号	(なし)	0-9、#(1-32 桁) 110/118/119(184/186 含む)は指定できません。	△ (*1)
-m	設定パラメータファイルが置かれている電話番号名のディレクトリの親ディレクトリ名	(なし)	テキスト形式のディレクトリ名	△ (*2)
-v	取得したファームウェアバージョンの保存先ファイル名	FirmVersion.txt	テキスト形式のファイル名	○ (*2)
-d	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先 IP アドレス	172.29.0.1	1.0.0.0～223.255.255.254 最後の桁が 255 は指定できません	○
-p	本設定ツールから管理操作対象の SIP-TA に接続する際の宛先ポート番号	80	1～65535	○
-b	申告する帯域	1000	1～1000	○

必須欄に○があるものはコマンドラインオプションが設定される必要がありますが、デフォルト値が設定されているものについては、コマンドラインオプションが設定されていない場合はそのデフォルト値を使用することになります。必須欄に○があり、かつ、デフォルト値が設定されていないコマンドラインオプションについては、コマンドラインオプションが設定されなかった場合はエラーとなり、その旨をログに出力して処理を終了します。

(*1)コマンドラインオプションの”-l”と”-t”は排他設定となります。よって、”-l”と”-t”のどちらかが設定されている必要があります。ただし、”-l”のほうはデフォルト値が設定されているため、”-l”と”-t”のどちらも設定されていない場合は”-l”のデフォルト値である”TelList.txt”を使用します。また、”-l”と”-t”のどちらも設定されている場合は、”-l”のほうを優先して使用し、”-t”の内容は無視します。(このとき、”-l”で指定されたファイルが不正であった場合はエラー終了とし、その場合も”-t”の内容は無視します)

(*2)コマンドラインオプションの”-m”を指定しなかった場合、”-v”に指定するファイル名(パス名)は絶対パ

ス、相対パスのどちらでも設定が可能です。相対パスの場合（ファイル名のみの指定の場合も含む）、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスとなります。
また、”-m”を指定した場合、”-v”で指定できるのはファイル名のみとなります。例えば、”-m”に「a/b/c」を、”-v”に「FirmVersion_test.txt」を指定した場合、本設定ツールをインストールしたディレクトリからの相対パスが「/a/b/c/電話番号/FirmVersion_test.txt」であるファイルに、電話番号が対応する SIP-TA のファームウェアバージョンを書き込むことになります。
”-m”を指定しなかった場合、適用するファームウェアファイルは”-v”で指定されたものか、そのデフォルト値である「FirmVersion.txt」の 1 種類のみとなり、SIP-TA 毎に区別することはできません。SIP-TA 毎にファームウェアバージョンファイルを区別したい場合は”-m”を指定する必要があります。

ファームウェアバージョン取得機能の対象ファイル

本機能で使用する対象ファイルについて説明します。
保存先ファイルに書き込むファームウェアバージョンの書式を図4.8-3 に示します。

「SIP-TA の電話番号」,「ファームウェアバージョンを表す文字列」
例）〇〇〇〇〇〇1111,SIP-TA_XXX

図 4.8-3 ファームウェアバージョンファイルに出力する書式

■5章　設定ツールの設定例■

５－１　設定ツールでのデータ通信の設定例

■5－1　設定ツールでのデータ通信の設定例■

データ通信を実現するために本設定ツールでの設定例と前提条件を示します。設定例を参考にして、本商品を設定してください。

設定例

(前提条件)
図 5.1-1 に示す 3 拠点の網構成とする
　サーバ設置拠点：サーバ装置 x 1 台 ＋ 監視用 PC x 1 台
　クライアント設置拠点：クライアント装置 x 1 台 x 2 拠点
遠隔管理：実施する(サーバ拠点設置の監視用 PC により実施)
IP アドレス／電話番号設定：表 5.1-1 による

表 5.1-1 IP アドレス／電話番号設定一覧

端末	電話番号	端末アドレス	ポート番号	仮想割当アドレス
サーバ	○○-○○○○-1234	192.168.100.2/24	100	10.10.1.1/16
クライアント 1	○○-○○○○-1111	192.168.20.2/24	100	10.10.2.1/16
クライアント 2	○○-○○○○-2222	192.168.20.2/24	100	10.10.2.2/16
オペレータ 端末(パソコン)	割当なし (発信のみ)	192.168.100.x/24 (DHCP による)	割当なし (発信のみ)	割当なし (発信のみ)

通信帯域：200kbps
最大セッション数：2 本以下（TCP コネクション数：10 本以下）
2 番号冗長：使用しない
使用グループ番号：宛先電話番号ごとに割当
発信者番号認証：「許可リスト」として、発信者番号認証を行う
WAN 側：DHCP による
LAN 側：DHCP サーバを使用する
　　（サーバ／クライアント装置はアドレス割当設定、監視用 PC はアドレス割当設定しない）

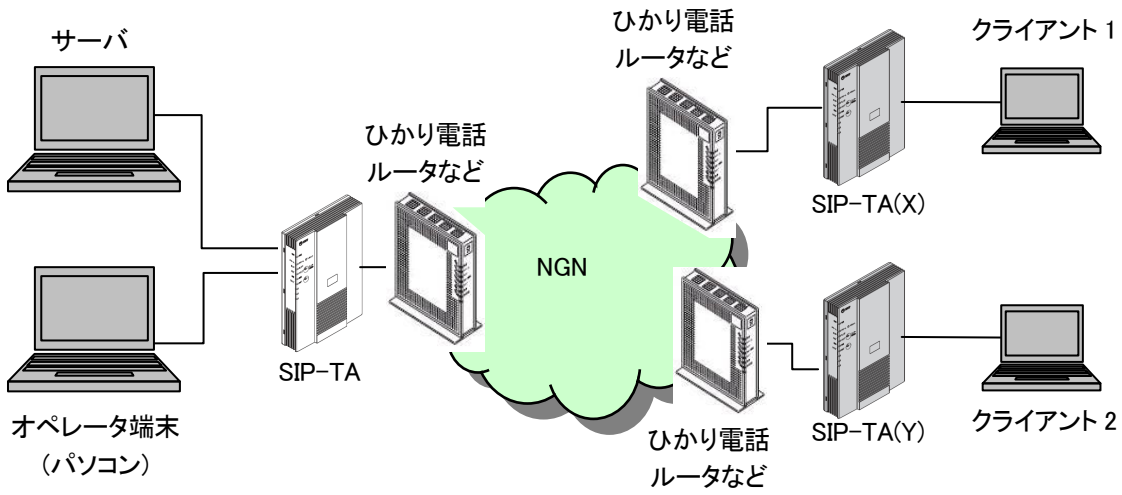


図 5.1-1 設定ツールによる設定例の網構成

サーバ拠点、各クライアント拠点の SIP-TA に対する、Web-GUI による設定例を表 5.1-2 から表 5.1-8 に示します。本設定ツールにより設定する項目の設定例を表 5.1-9 から表 5.1-11 に示し、本設定例を実施する場合にツールで使用する CSV ファイルの記述例を図 5.1-2 から図 5.1-4 に示します。また表にない設定項目については装置のデフォルト設定を使用することとします。

表 5.1-2 QoS エントリ設定一覧

【QoS エントリ設定】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
エントリ番号(ID)	1	ツールにより設定	ツールにより設定
QoS エントリ	有効	ツールにより設定	ツールにより設定
送信元 IP アドレス	0.0.0.0	ツールにより設定	ツールにより設定
送信元ポート番号	0	ツールにより設定	ツールにより設定
宛先 IP アドレス	10.10.2.1	ツールにより設定	ツールにより設定
宛先ポート番号	100	ツールにより設定	ツールにより設定
宛先電話番号	○○○○○○1111	ツールにより設定	ツールにより設定
宛先電話番号(予備)	空白	ツールにより設定	ツールにより設定
グループ番号	1	ツールにより設定	ツールにより設定
メディア情報帯域幅	200	ツールにより設定	ツールにより設定
メディア情報･フォーマット※1	octet-stream	ツールにより設定	ツールにより設定
最大 SIP セッション数	0	ツールにより設定	ツールにより設定
最大メディアストリーム数	0	ツールにより設定	ツールにより設定
無通信状態判定時間指定	デフォルト	ツールにより設定	ツールにより設定
無通信状態判定時間	―	ツールにより設定	ツールにより設定
エントリ番号(ID)	2		
QoS エントリ	有効		
送信元 IP アドレス	0.0.0.0		
送信元ポート番号	0		
宛先 IP アドレス	10.10.2.2		
宛先ポート番号	100		
宛先電話番号	○○○○○○2222		
宛先電話番号(予備)	空白		
グループ番号	1		
メディア情報帯域幅	200		
メディア情報･フォーマット※1	octet-stream		
最大 SIP セッション数	0		
最大メディアストリーム数	0		
無通信状態判定時間指定	デフォルト		
無通信状態判定時間	―		
※1 保守者の時だけ表示／設定可能です			

表 5.1-3 着呼エントリ設定一覧

【着呼エントリ設定】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
エントリ番号(ID)	1	ツールにより設定	ツールにより設定
SIP アダプテーション着呼エントリ	有効	ツールにより設定	ツールにより設定
電話番号	○○○○○○1234	ツールにより設定	ツールにより設定
着信先 IP アドレス	192.168.100.2	ツールにより設定	ツールにより設定
着信先ポート番号	100	ツールにより設定	ツールにより設定
最大 SIP セッション数	0	ツールにより設定	ツールにより設定
最大メディアストリーム数	0	ツールにより設定	ツールにより設定

表 5.1-4 発信者番号認証エントリ設定一覧

【発信者番号認証エントリ設定】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
エントリ番号(ID)	1	ツールにより設定	ツールにより設定
発信者番号認証エントリ	有効	ツールにより設定	ツールにより設定
発信者番号	電話番号指定 〇〇〇〇〇〇1111	ツールにより設定	ツールにより設定
宛先電話番号	空白	ツールにより設定	ツールにより設定
エントリ番号(ID)	2		
発信者番号認証エントリ	有効		
発信者番号	電話番号指定 〇〇〇〇〇〇2222		
宛先電話番号	空白		

表 5.1-5 WAN／LAN IP アドレス設定一覧

【WAN 側 IP アドレス】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
アドレス設定方法	DHCP モード	DHCP モード	DHCP モード
【LAN 側 IP アドレス】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
IP アドレス	192.168.100.1	192.168.20.1	192.168.20.1
ネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0	255.255.255.0

表 5.1-6 DHCP サーバ情報設定一覧

【DHCP サーバ情報】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
DHCP サーバ機能	有効	有効	有効
割当先頭 IP アドレス	192.168.100.2	192.168.20.2	192.168.20.2
割当可能数	64	64	64
デフォルトゲートウェイ	192.168.100.1	192.168.20.1	192.168.20.1
プライマリ DNS サーバ	192.168.100.1	192.168.20.1	192.168.20.1
セカンダリ DNS サーバ	空白	空白	空白
リース時間[h]	24	24	24

表 5.1-7 アドレス割当 エントリ設定一覧

【アドレス割当 エントリ設定】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
エントリ番号(ID)	1	1	1
アドレス割当エントリ	有効	有効	有効
IP アドレス	192.168.100.2	192.168.20.2	192.168.20.2
MAC アドレス※1	xx:xx:xx:xx:xx:xx	xx:xx:xx:xx:xx:xx	xx:xx:xx:xx:xx:xx
※1 接続する装置によります			

表 5.1-8 遠隔管理受付設定一覧

【遠隔管理受付設定】	サーバ設置拠点	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
遠隔管理受付	無効	有効	有効

表 5.1-9 本設定ツールによる QoS エントリ設定一覧

【QoS エントリ設定】	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
エントリ番号(ID)	1	1
QoS エントリ	1:有効	1:有効
送信元 IP アドレス	0.0.0.0	0.0.0.0
送信元ポート番号	300	300
宛先 IP アドレス	10.10.1.1	10.10.1.1
宛先ポート番号	100	100
宛先電話番号	○○○○○○1234	○○○○○○1234
宛先電話番号(予備)	空白	空白
グループ番号	1	1
メディア情報帯域幅	200	200
メディア情報・フォーマット	0:octet-stream	0:octet-stream
最大 SIP セッション数	0	0
最大メディアストリーム数	0	0
無通信状態判定時間指定	0:デフォルト	0:デフォルト
無通信状態判定時間	600	600

表 5.1-10 本設定ツールによる着呼エントリ設定一覧

【着呼エントリ設定】	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
エントリ番号(ID)	1	1
SIP アダプテーション着呼エントリ	1:有効	1:有効
宛先電話番号	空白	空白
着信先 IP アドレス	192.168.20.2	192.168.20.2
着信先ポート番号	100	100
最大 SIP セッション数	0	0
最大メディアストリーム数	0	0

表 5.1-11 本設定ツールによる発信者番号認証エントリ設定一覧

【発信者番号認証エントリ設定】	クライアント設置拠点 1	クライアント設置拠点 2
エントリ番号(ID)	1	1
発信者番号認証エントリ	1:有効	1:有効
発信者番号	0:電話番号指定	0:電話番号指定
電話番号	○○○○○○1234	○○○○○○1234
宛先電話番号	空白	空白

```
1,1,0.0.0.0,300,10.10.1.1,100,〇〇〇〇〇〇1234,,1,200,0,0,0,0,600
```

図 5.1-2 QoS エントリ設定 CSV ファイル例（qostable.csv）

```
1,1,,192.168.20.2,100,0,0
```

図 5.1-3 着呼エントリ設定 CSV ファイル例（receivetable.csv）

```
2
1,1,0,〇〇〇〇〇〇1234,
```

図 5.1-4 発信者番号認証エントリ CSV ファイル例（hatsuban.csv）

■6章　付録■

６－１　用語集

■6－1　用語集■

用語一覧

用語	解説	備考
NGN	Next Generation Network の略。 IP をベースとする次世代の基幹通信回線網。	
SIP アダプテーション機能	LAN 側端末の通信開始／終了に連動して、WAN 側へ対応する SIP セッションの確立／切断を行う機能。	
SIP-TA	SIP アダプテーション機能を有する装置。本設定ツールにより設定・読出を実施する対象の装置。SIP-TA-02、SIP-TA-32 がある。	

MEMO

©2010 NTTEAST・NTTWEST